

(案)

委員会活動報告書

令和6年度未来都市創造に関する特別委員会

委員長 門 田 まゆみ

副委員長 大井 としひろ

理事 山下 てんせい

理事 吉 田 謙 治

理事 前 田 あきら

理事 木戸 さだかず

原 直 樹

岩 佐 けんや

香 川 真 二

大 野 陽 平

三木しんじろう

大かわら 鈴子

よこはた 和幸

平 井 真千子

坊 池 正

1. 未来都市創造に関する特別委員会の設置目的

神戸が将来にわたり魅力あふれる都市として輝き発展していけるよう、人口減少社会も見据えた新たな時代の神戸のまちづくりに関する必要な事項について調査する。

2. 令和6年度の取組

(1) 調査テーマ 「子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちづくり」

少子化が進む中で、神戸市も他の自治体と同様に子育て支援に力を入れているが、神戸市が行ったアンケート調査では「子育て環境がよい」との意見が少なかった。また、神戸市に住み続けたくない理由として「子育て環境がよくない」との意見が多くあった。

一方で、住み続ける「まち」の魅力として重視する項目として、「子育て環境が良いまち」を選択した回答が多くあった。

このため、神戸市の子育て環境を深掘りし、神戸市が子育て世帯に選ばれ、住み続けてもらえるまちになるためにはどうあるべきかについて調査・議論を行うこととした。

(2) 活動内容

令和6年10月25日 企画調整局との意見交換

委員会活動に必要な情報を収集するため、神戸市の現況や取組等を確認した。意見交換の要旨については、別紙1（P7～P13）のとおり。

令和6年12月6日～令和7年2月28日 フィールドワーク

有効な政策を検討するに当たり政策課題等を把握するため、委員会を次の3つのグループに分けて、フィールドワークを実施した。

グループA

① 主な調査対象： 将来の子育て世帯（単身又は夫婦のみ世帯、大学生、高校生）

② 調査者： 山下理事（幹事）、吉田理事、原委員、よこはた委員、平井委員

③ 実施内容

・結婚・子育て等に関する高校生意識調査

実施時期： 令和7年1月14日～1月31日

対象： 市立高校2年生1,872名（令和6年5月1日時点）

方法： WEBによるアンケート調査

・2025年神戸市はたちを祝う会代表スタッフとの意見交換

実施時期： 令和7年1月19日

対象： 実行委員会代表スタッフ4名

④ 実施結果

意見交換では、神戸の住みやすさや将来の結婚・子育てなどに対する前向きな意見があった一方で、将来の経済的な不安や老後を心配する意見などがあった。また、地域における交通や教育の格差の解消などを求める意見や、自身のキャリア形成期と出産適齢期が重なることから、女性は将来の選択を躊躇してしまうといった社会全体で解決していかなければならない課題に対する意見もあった。

高校生意識調査では、656名の回答が寄せられ、回答者の約7割が結婚に対して前向きであり、子どもが欲しいとの回答であった。一方で、その結婚や子育てに対する不安や心配の声も多くあった。



グループB

- ① 主な調査対象： 市内企業・事業者（子育て世帯の雇用の観点から）
- ② 調査者： 木戸理事（幹事）、大井副委員長、岩佐委員、大野委員、大かわら委員
- ③ 実施内容
 - ・若者・子育て世代の雇用に関する調査
 - 実施時期： 令和7年1月10日～1月24日
 - 対象： 市内企業600社（無作為抽出）
 - 方法： WEBによるアンケート調査、結果分析
- ④ 実施結果

139社から回答が寄せられた本調査結果からは、働き手の求める労働環境、ワーク・ライフ・バランスの大きな変化に対して、企業側が十分に対応できていない現状が明らかとなり、企業や事業者が求める行政支援の内容が多岐に渡ったことから、多様なメニューできめ細かく支援することの必要性が示唆された。

売り手市場の中、若者及び子育て世代に選ばれるために、委員会として企業がニーズ変化に対応できるように、支援の継続、見直し、拡充を市に求めている必要があることを導いた。



グループC

- ① 主な調査対象： 現役の子育て世帯（現在子どもを育てている世帯）
- ② 調査者： 前田理事（幹事）、門田委員長、香川委員、三木委員、坊池委員

③ 実施内容

- ・おやこふらっとひろば名谷におけるヒアリング
実施時期： 令和7年1月21日 午前
対象： 主に未就学児を育てる施設利用者及び施設従業員
- ・神戸名谷ワークラボ SUMAile における就業者との意見交換
実施時期： 令和7年1月21日 午後
対象： 子育て中の就業者4名

④ 実施結果

おやこふらっとひろば名谷においては、21名の保護者から意見を聴取した。子育て支援策について一定の評価が寄せられた一方で、「保育園に入れなかった」、「一時預かりが近くにある」などの意見もあった。また、制度の拡充のほか、仕事復帰への支援を求める意見などもあった。

調査を通して、未就学児の保護者より中高生の子育て中の保護者の方が、具体的に求める施策が多く出され、経済的な支援の充実を求める声が強かった。また、「施策を知らなかった」、「発信力がなく、届いていない」、「あっても使いづらい」などの意見もあり、保護者の満足度を高める上でも、施策の広報の在り方や制度設計がニーズに合っているかなどの課題も見えた。



グループごとの実施報告書については、別紙2（P14～P86）のとおり。

令和7年3月12日 フィールドワークの実施報告、委員間討議

グループごとに実施結果を報告した後、「子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちづくり」に基づき、これまでの活動を通じて見えてきた問題や課題等について委員間討議を行った。委員間討議における各委員からの意見は別紙3（P87～P89）のとおり。

令和7年4月9日 委員間討議

委員会活動報告書案について、委員間討議を行った。委員間討議における各委員からの意見は別紙4（P90～P94）のとおり。

3. 見えてきた課題に対する意見

神戸市が、子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちになるために、

○ 子育て支援策が伝わる、子育てとの両立がイメージできる

神戸市はライフステージに応じた切れ目のない支援として子育て支援策を打ち出しているが、「制度を知らなかった」といった意見が多数寄せられたことから、子育て支援策がその利用者に確実に届く、分かりやすい発信がなされていることが必要である。単なる制度の発信ではなく、その制度が利用者の生活にいつどのような効果があり、仕事と子育てが両立できるなど、将来により良いイメージを持ってもらえるような発信を求めていく必要がある。

○ 真にニーズに合ったサービスが提供できる

「サービスが利用しづらい」、「利用していない」といった意見が多数寄せられたことから、既存の制度や新たに提供するサービスについて、提供開始前後を問わず、ニーズを的確に把握し、絶えず見直しを行い、充実を図っていくことを求めていく必要がある。

○ 子育て世帯が働きたい、又は働きやすいと思える職場がある

企業側が働き手の求める労働環境、ワーク・ライフ・バランスの大きな変化に対応できていない現状が明らかとなったことから、若者及び子育て世帯が神戸で働きたいと思ってもらえるように、その対応に取り組もうとする企業を支援するメニューを増やし、多様化する企業側のニーズに合致したきめ細かい支援を求めていく必要がある。

4. まとめ

今年度の委員会は、当局との意見交換やフィールドワークなど、委員会としては初の試みをいくつか実施した。企画調整局との意見交換では、大都市として圏域を牽引する神戸市の現況について認識を深め、政策形成に対する当局の考え方等を確認した。フィールドワークでは、限られた時間の中で各々のグループが知恵を出し合い、その調査範囲や母数は決して大きくないものの、市民や企業等から様々な意見を聴取し、我々が日頃から重視している現場の声に対し、改めてその理解を深める機会となった。その後の討議においては、会派を超えて共通した課題を訴える意見が多く出された。

さて、活動を通して見えてきた課題に対する意見については前述したとおりであるが、今年度の調査テーマ「子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちづくり」においては、現在子供を育てている世帯に限らず、将来子供を産み育て得る若い世代が、神戸を居住地として選択することも願意としている。

人口減少、少子高齢化が大きな社会課題の一つとされる中、社会の将来の担い手となるのは若い世代の子供たちである。SNS等の強力な広報媒体の出現により、物事の良い面も悪い面も即時に復唱され、人々の記憶に刷り込まれる時代となった。また、一度刷り込まれた情報は、新たな情報に置き換えることが難しいようにも感じる。

今回の調査では、人口減少に歯止めをかけるために必要な結婚や子育てに対する考えについて、高校2年生の約7割から前向きな回答があった一方で、将来の収入や社会環境を不安視し、心配する声も多く頂いた。その理由を大学生に直接問うと、学校での授業から、メディアやSNS等の発信から、自分たちの将来にそういう印象を持つのだと言う。また、結婚や出産によって仕事のキャリアが途絶えてしまうことに対する若い女性の不安の声や、依然として男性より女性に家事や子育ての負担が偏りやすいなどといった社会全体の課題も見過ごすことはできない。

議会人として、市民が直面する現実の問題を解決するために、様々な社会課題に正面から向き合い、市政に確実に訴えていくことは極めて重要なことであるが、そのような中であっても、若い世代がその将来に対する前向きさ、希望を失うことがないように、必要な政策の提案を行うとともに建設的で分かりやすい発信が強く求められているのではないだろうか。

将来にわたって、神戸が子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちとなるように、今年度の活動を通じて得た知見を今後の議会活動に生かしてまいりたい。最後に、今年度の当委員会の取組に対し、多大なるご協力をいただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

別紙 1. 企画調整局との意見交換（令和 6 年 10 月 25 日）

(1) 学生・単身世帯の人口動態について

(確認事項)

- ・大学生アンケートでは、市内出身者は市外の大学に進学し、理系人材を中心とした市外流出が見られるとも読み取れる。
- ・大学生の就職について、市内企業の求人が需要を満たしているか調査しているのか。
- ・大学生の就職活動において、市実施の就職イベントを「知らなかった」が 58%であり、改善の余地があるのではないかと感じる。
- ・大学生が就職後の居住環境で最も重視するのは家賃水準である。市内大学生が卒業、就職を機に市外に流出することについて、どのように考え、また対策する意思はあるか。
- ・区の特徴が学生に十分に知られていないのではないかと感じる。市外に就職した場合にも居住地として選ばれるまちとなるために、周辺他都市に引けをとらない、利便性や住環境の良さを打ち出す施策が必要ではないか。

(企画調整局)

- ・理系の市内大学生の割合は 3 割だが、神戸では医療系・福祉系・介護系の学部が比較的多く、それらを除く理系学部はこの半分弱ということになる。
- ・神戸地域では、建設業、製造業、医療・介護等の有効求人倍率は高いが、情報通信業（IT 関連）、事務職の有効求人倍率は低い。
- ・大学側の学部構成やカリキュラムが企業側のニーズと合っているのかということも含めて、これから産官学で連携していく必要がある。
- ・大学生アンケートは年度ごとにばらつきがあり、就職イベントの認知度について、令和 5 年度の認知割合は約 7 割で、今年度の調査では認知が進んでいる。
- ・15 歳から 19 歳は転入超過で、西日本からの転入が多く、東京圏や大阪府、京都府に対しては転出超過の傾向がある。
- ・20 歳から 24 歳、就職時の移動状況は転出超過である。東京圏、大阪府に対しては転出超過、県外移動の割合が高く、就職を機とした経済圏の選択による動きが目立つ。
- ・大学生アンケートにおける就職後の居住環境で重要な項目としては、家賃水準が一番高く、職場に近い、最寄りの駅までの距離、生活利便施設があるといった項目が続く。
- ・単身世帯では、手ごろな住宅が賃貸できる、交通・買い物の利便性を移動理由に挙げる回答が多い。一番多いのは、勤務地を中心に考えることで、転出入のほとんどは就職に伴う経済圏の選択であろうと考えている。
- ・最近では行政区や地域への帰属意識というよりは、駅を中心とする圏域の中で、住居地を選択する傾向が強くなっている。これからは駅周辺環境整備も重要で、駅のリノベーションも重要であろうと考える。
- ・明石・大阪は 30 分以内の圏内で住宅地としてのポテンシャルもある。東西の交通利便性が非常に高いため、市外も含めた広域での圏域というものが形成されている。

(2) 子育て世帯の人口動態について

(確認事項)

- ・転入者へのアンケート結果では、買物などの利便性について、地域差、サービスレベルなど何の違いで真反対の評価になるのか。同様に、子育てのしやすさについても評価が分かれる。こういった点に着目して市全体の施策の展開、調整に活用しているのか。
- ・子育て世帯を含む若年・壮年世代はどのようなところから流入し、こういったところに流出しているのか。その動向から大きなトレンドが見えるのではないか。対象世代の社会増減について、要因分析をしたことはあるか。
- ・子育て世帯が居住地を選ぶ際、子育て・教育環境、住宅環境、雇用環境など、重視しているものがあり、それらに対して的確かつ有効な政策を打ち出していく必要がある。子育て世帯が居住地を選ぶ際の理由や需要をどのように把握しているか。それらのニーズに伝えていくため、政策を検討する際に重視していることは何か。
- ・都心のタワマン規制について、都心部は商業・オフィスを集積させ、周辺人口を支えるという考え方に賛同している。一方、周辺で十分な住宅供給ができていなければ、この方針が成り立たないが、周辺他都市に比べて住宅取得がしにくいまちになっていないか。
- ・利便性の高いところにファミリーマンションを呼び込むような施策がそういう地域では必要ではないかと思うし、全区においてそれぞれ住宅供給の相応しい在り方のような課題認識ができていないのかなど、対策が打てているのかを確認したい。
- ・住み続けたいまちにしていこうためには、都心の再開発や、主要駅周辺へのマンション誘致に偏重せず、郊外の住宅の更新、活性化を支援することも重要と考えている。郊外について、5階建て旧公社やURなど郊外団地の課題をどう捉え、全市的にどのような対策を進めようとしているか。
- ・須磨区の場合はURだけでなく旧公社がつくった5階建てが大量にあり、そこをどう対応するかというのが、若い世代にも高齢者にとっても必要かと思う。東落合の市営住宅では、建て替えでなく5階建てにエレベーターを設置する方向で検討が進められた。持ち家になっている旧公社の5階建てやURに対しても行政の同じようなフォローがあって、そういう努力をすれば、躯体は頑丈なので活用できるのではないかと思うが、既存の民間又は個人所有の5階建て団地への活用などは検討しているか。

(企画調整局)

- ・転入者アンケートでは、買い物などの生活利便性について、住み続けたい理由にも住み続けたくない理由にも挙がっている。住み続けたい人が355人、住み続けたくない人が29人と、N値が大きく異なり、正反対の評価結果となった。
- ・25歳から29歳、ライフステージとしては結婚等の移動になると思う。2023年は転出超過で、大阪市、東京の特別区もあるが、県内移動が過半数を占めている。0歳から4歳、就学前子育て世代の動きと連動する部分であるが、やや転出超過となっている。県内移動の割合が上がっていく中で、神戸を一定の経済都市圏と考えたときに、同一経済

圏の中でのライフステージに合わせた居住地選択の動きがある。

- ・夫婦と子の世帯では、勤務地が近いことが優先度は一番高いが、割合は50%程度に低下し、交通の便、子育て・教育環境、公園等の自然環境を重視する傾向が強い。親との近居・同居の割合がちょっと高くなってくることが特徴である。
- ・子育て世帯のニーズに応えていくための政策検討の重視事項については、①神戸ならではの健やかに成長できる環境、②切れ目のない支援、③子育て世帯の状況に応じた支援、④孤独・孤立など社会問題を踏まえた対応、⑤多様な主体の参画、⑥持続可能な子育て支援の6点である。
- ・2019年から2023年の住宅の新規供給状況では、西宮市・尼崎市と東灘区・灘区を比べると、東灘区がかなり少なく、明石市と西区・垂水区を比べると、西区・垂水区も少ない傾向にある。長田区も、少し共同住宅の方は増減があるが、全体供給量として十分なのかどうかという状況である。
- ・人口一人当たりの総住宅数は、政令市平均をちょっと下回っており、住宅ストックは、政令市の下から6番目で、かなり少ない状況である。
- ・空き家率について、政令市でも5番目に多い。空き家の活用は大事であるが、その地域における新規住宅の供給状況も見ながら、行政としては民間投資を誘発していく上で、駅前のリノベーションなどについてもしっかりとやっていく必要があるか考える。
- ・地下鉄などの駅を中心にリノベーションを進めている状況であり、このような形で民間投資を誘発していくことが非常に重要だろうと考えている。
- ・将来人口推計では2054年には110万人になるが、これは1960年頃の人口規模相当であり、今施策としてはリノベーションと合わせた新規住宅供給や、駅周辺の活性化、そういうところの空き地・空き家対策も含めて、それぞれが施策展開しているというところである。
- ・郊外地におけるエレベーターのない4階建て以上の賃貸住宅の活用を目的として、住みかえーる団地活用型補助金を令和4年度から創設している。郊外型のオールドタウン化したニュータウンについては、神戸の場合、URの住宅がニュータウンに多くあるため、都市局が包括連携協定を締結し、郊外団地の活用によるまちづくりやストック活用などを行っている。
- ・郊外型の団地の更なる活性化に繋がる施策の検討に当たっては、今後も都市局・建築住宅局などの関係局とも連携して、こういったEBPMに基づく支援推進を企画調整局としてはしっかり進めていく必要があると考えている。
- ・市営住宅で検討している5階建てにエレベーターを設置するような取組について、民間住宅になると範囲が非常に広がるため、今のところそういう話を聞いてはいない。

(3) 雇用の創出について

(確認事項)

- ・今まで神戸市は子育て支援に力を入れてきた。住みたいまちづくりを実現するためには、それだけでなく様々な業種の企業誘致を行い、働く場所の選択肢を増やし、またその確

保に力を入れていく必要がある。

- ・神戸市内に住んでいる大学生が市内で就職すれば、その後結婚、出産を通じて、市内に定着していく。神戸の良さが分かっている神戸在住の大学生をいかに囲い込んで、市内に就職してもらうことが大事だ。その観点から、希望する学生が多いが神戸市に少ない産業、具体的には情報通信業、金融・保険業の事業所をいかに誘致していくかが大事だと思う。業種を限定して企業誘致をしていくということは政策として可能なのか。
- ・大学生の希望就職先の需要を満たせているかどうか、行政としては支援する必要がある。情報通信業といっても、ベンチャーなどの産業の育成はなかなか難しい。どうしても東京に出ていってしまうと思う。このため、神戸ならではの地場の情報通信業ができるのかどうか、どういった分野の産業を育成していくのか、そういったビジョンで人材育成の部分も含めて、企画調整局としては何か方針を示す手立てなどはあるのか。
- ・30分圏内でも市を越えてしまうから、働くところは市街地でもいいが、住んでもらうのを神戸にしてもらうためにはどうしたらいいかという議論が必要だ。産業を持ってくるか持ってこないかの議論は少し違うのではないか。
- ・大学生アンケートでは、就職活動を始めた時点で最も希望していた勤務地の1位は神戸市である。一方で、就職後の住居希望地は、大阪府が1位になって神戸市が2位に落ちているが、なぜこういうことになるのか。市内企業等に就職活動する際に感じる課題として、就職情報を得にくい、希望する業種が見つからない、希望する職種が見つからないとの回答が多い。官民が連携して、民間企業からも情報発信していただくことが必要だと思う。
- ・企業を呼んでくることも大事だが、今、神戸にある企業の中にも魅力ある企業はあるわけで、子育てなどいろんな考えを会社内で行っているところもあると思う。企業情報に関しても大学生の就職希望者に対して発信していく必要があると思うが、行政としての支援はこれまでに行っていたのか、それとも今後広げていくのか。
- ・神戸は、造船業、鉄鋼などの大企業がたくさんある重工業の町だった。中小企業にまで仕事が及ぶ裾野が広い産業だが、阪神・淡路大震災以降、海外との価格競争に勝てず、造船から撤退するなど、どんどん衰退していつている。全体的なもっと大きなところで雇用をどう考えているのか。
- ・理系人材等を定着していつていただきたい。情報通信とまちづくりなど、これからの神戸の戦略を狙えるような、例えば、再生可能エネルギーをさらに拡大させていこうとすれば、電気通信などを利用したスマートグリッドに特化したような企業、その関連企業を誘致するなどの戦略はあるのか。

(企画調整局)

- ・産業政策も含めた今の考え方について、市内の所得を増やしていくことによって税収が増えることが、最終的には子育て施策に使える財源を豊かにしていくことになるということが大前提にある。
- ・神戸市の場合、2020年の従業者数（地域内の就業者数）は就業者数（地域住民の就業者数）よりも多い。通勤者が流入する拠点性の高い地域で、一定の経済圏をつくってい

る。

- ・神戸市域内で新たに生み出された付加価値額を産業別に見た場合、一番大きいのは、卸売・小売業、製造業、医療・福祉である。製造業は付加価値額に対する乗数効果や波及効果が高い。神戸は全国的にも全産業に占める製造業の割合が高いので、市民所得への寄与度が高い。
- ・産業別純移輸出額として、製造業、運輸・郵便、鉄鋼、専門・科学技術、業務支援サービスといった産業が域外からお金を稼いでいるところが、神戸の産業の大きな強みだろうと思う。
- ・大学生が志望する産業と神戸市の産業構造との比較では、学生側のニーズとミスマッチを起こしているところもある。例えば卸売・小売、宿泊・飲食業は、求人としては非常に多いが学生側からの求職数はそれほど多くない。
- ・国勢調査の中で独自に調べたところ、就職時には情報通信業の転出超過がある。情報通信、金融・保険業の占める割合は低いが、転出超過が拡大し、若年女性の特徴としては、医療・福祉、宿泊・飲食サービスが転入超過となっていることを示すデータもある。こういったミスマッチの部分と、例えば宿泊・飲食も含めて付加価値をどう上げていくのかということがこれから大きな考え方になってくる。
- ・産業で分けた企業誘致について、情報通信産業とはかなり情報に特化した産業となるが、製造業もデジタル化も含めていろんなイノベーションをして、新しい展開をどんどんしている。既存の産業にも新しいイノベーションを起こしていくという概念も必要ではないか。
- ・企業のニーズを大学がどう拾って学部を構成していくのかも非常に大事だと思う。企業のニーズをどう拾って、それに付随する人材を育成し、どういう産業を中心に据えていくのかも含めて考える必要があると思う。
- ・企業誘致、産業誘致、スタートアップを含めて、経済観光局でいろいろと考えていると思うし、データも共有しながらやっているのも、以前に比べてもかなり精緻な分析をしていると思う。その中でどういう企業をこれから誘致なり育成なりにターゲットを絞っていくのかということも含めて、所管している大学・高専とも連携しながら、しっかり地元定着に繋がるような形で施策を進めていきたい。
- ・仮に圏域に住んだらよい、産業は別のところでもよいということになると、市内の経済全体がシュリンクしていく中で、当然市民所得も減っていくことになり、その影響は非常に大きい。経済と住居のバランスがやはり大事だと思う。
- ・理系人材の受け皿も含めて、企業ニーズとどうマッチングしていくかということもこれから必要になってくる。就職したいが市内では就職できなかったという話も、企業からのニーズをしっかりと聞いて、例えばどういう人材を大学として育成していく、あるいはもっと手前の高大連携の中で育成していくことをさらに考えていく必要がある。
- ・市内中小企業で人が足りない、そこに学生を送り込んでほしいという話はたくさんある。学生側からすると、それをあまり知らないケースもあるので、そこをどういうふうに情報を流していくのかということで大学連携プラットフォームをつくった。ミスマッチの部分解消して、市内企業に学生が就職しやすい機会をどんどんPRしていくのは

大事だと思う。

- ・製造業は神戸の基幹産業で、神戸港を含めて大事にしていく必要がある。製造業においても技術革新が進んでいるし、製造業は乗数効果、波及効果が非常に大きい産業なので、神戸市としては非常に大事にしていく必要があると思う。造船業は神戸市から出ていったが、代わりに新しい医療産業の要素が入り、重工産業などが出てきている。そういうところの技術革新や新しい業態転換などの部分もしっかり製造業を基軸にしながら支えていくことも大事ではないかと思う。
- ・国全体でも、スタートアップも含めてだが、情報通信やグリーンなどはキーワードになっていると思うので、そういう企業誘致や人材育成も含めて進めていく必要はあると思う。大学なり学部についても、それに合わせた形でカリキュラムを組んでいることを、大学の学部再編の議論の中でも出てきていると聞いている。

(4) 子育て支援について

(確認事項)

- ・家計支出調査では、高校1年生と19歳において交通通信費の額が大きく伸びている。高校生に対しては市内通学定期を無償化するという策を打ったが、19歳に対して同様の助成は考えられないか。
- ・家計支出調査では、他都市と比べて、神戸市の子育て世帯は中学1年生までは「お金をかけずに済んでいる」のか、もしくは「お金をかけることができない」のか。また、高校1年生、19歳では急激に支出が増加しているのはなぜか。
- ・本市では、子育てしやすいまちになるための経済的支援の拡充として、学校給食費の負担軽減について議論されてきた。学校給食費の無償化を含む各施策の効果をどのように比較検討し、施策の優先順位付けを行っているのか。
- ・小規模自治体の子育て世帯優遇施策と効果を分析し、本市の施策に反映しようとしたことはあるか。小さな規模で実施すると効果分析ができる。大規模自治体でも効果的な政策になる可能性もある。
- ・他都市が導入している子育て世帯に対する優遇政策について、分析、評価したものがあれば説明をお願いしたい。また、他都市の子育て世帯に対する優遇政策を本市の政策として導入する際、何を重視するのか、政策形成過程における着眼点などがあれば教えていただきたい。
- ・各自治体でやるよりは圏域で、広い範囲で子育て政策や少子化対策などに取り組むことは必要だと思う。子育て政策や少子化対策などを話し合う機会はあるのか。

(企画調整局)

- ・高校進学率は98%で公的便益性が強いが、大学・短大に限ると進学率は60.8%で私的便益性も強い状況の中で、経済的負担軽減の観点からどのような支援をしていくかということになる。
- ・大学生の居住形態、自宅・寮・下宿の割合について、特に国立・公立で自宅よりも下宿

が多い。通学定期補助についてどこまで大学生に適用できるか、慎重な検討が必要である。

- ・家計に関する支出は、中1では政令市平均より低く、高1と19歳で政令市平均より高くなる。特に中1から高1にかけては交通・通信費、高1から19歳にかけては教養娯楽費がその要因として挙げられる。
- ・年齢別人口動態は、特に子育て世帯である20～39歳の転出傾向が顕著であることは、神戸の特徴である。
- ・神戸市はライフステージに応じた切れ目のない支援を実施しており、これらの取組は、子育て環境について評価されている要素として考えている。
- ・学校給食については、限りある市の財源の中でどうバランスよく政策を考えていくかということであり、議論を深めていく必要がある。ただ、学校給食費の無償化は、かなりの財源が必要になる。指定都市市長会も学校給食費の保護者負担額については自治体間で格差が生じないよう、国の責任において無償化を始めとするような恒久的な制度として、必要な財政措置を講ずることが必要ではないかということを緊急提言しているところで、これらを考慮すべきだろうと考えている。
- ・神戸市としてライフステージにおいて切れ目のない支援は、政策として一定揃えている。その中で、神戸市の子育て支援策についてより多くの方に知ってもらう広報戦略が非常に重要である。在住者アンケートでは、子育て世帯が子育て環境を評価している率は高い。子育て世帯に知ってもらえば評価が高くなるということなのでいくと、いかに知ってもらえるかが大事である。
- ・都心から30分圏内で見たときに、神戸では神戸市域を出てしまう。行政圏域の中で、それぞれの役割や競争の中で、特徴を出していく、それを生み出していくことはもちろん大事だと思う。結局その後、成長されて転出される場合は、近接地で転出入を繰り返していけるわけだから、そういうデータも見ていくことも分析の視点として、私は必要ではないかと思う。

別紙 2 . フィールドワーク実施報告書

未来都市創造に関する特別委員会

グループA フィールドワーク報告書

1 概要と調査手法

グループAが調査することになったのは、10代～大学生といった、若年世代である。そのため、高校生に対しては、市立高等学校に協力を仰ぎ、高校2年生を対象とした意識調査を実施し、大学生世代に対しては、2025年神戸市はたちを祝う会の代表スタッフとの意見交換を行った。

2 報告

(1) 2025年神戸市はたちを祝う会代表スタッフとの意見交換

令和7年1月19日（日）、主に下記①～④のトピックについて、代表スタッフ4名と意見交換を行った。

① 神戸に住んで思うこと

◎ 神戸の推しポイントについての代表スタッフの意見

- ・観光客に人気で観光スポットも美味しい名物もある。知名度も高い。
- ・ウェブサイト・ホームページで結婚や子育てのリソースが沢山分かりやすく公開されている。就職活動のこともしっかりと書いてあり、多言語対応になっている
- ・ちょうど良い都会である。日本の大きなイベントは、東京か大阪になるが、神戸でもたまに開催がある。大阪へのアクセスもいいし、東京ほど人が多くない。
- ・海側と山側があって、自然が融合していて良い環境だと思う。気軽に海にも山にも行けるし、ショッピングもできる。色々な趣味を見つけることができる。

◎ 神戸の残念なところについての代表スタッフの意見

- ・駅から離れた地区の高齢化
- ・市内での交通の便にムラがあること。地域によっては車社会になっていて、公共交通機関でアクセスができない場所がある。車ありきで学生だけで行動できない。鉄道駅まで徒歩で行けず、習い事も部活も親の送迎が必要だった。
- ・北側は、防災面で優れるが、交通の便が良くない。改善されなければ、神戸に住むなら南側を選ぶ。これが市内の人口不均衡につながるのではないか。
- ・観光面では、神戸の玄関口である新神戸駅前に目立つ観光地がない。新神戸から三宮、新神戸からハーバーランド、元町からハーバーランド等の動線、距離が不便。山の多い北区に新しい観光地があればいいと思う。
- ・（神戸に限ったことではないが）年金が減ってきていることについて将来が不安。

② 結婚観

「理想の年齢までに結婚したい」「相手がいれば結婚したい」「仕事や自分の生き方と両立できないなら結婚したくない」「結婚したくない」から選択してもらい、その理由を聴取した。

◎ 代表スタッフの意見

- 「理想の年齢までに結婚したい」（2名）
 - ・ 子どもと関わるのが好きなので子どもが欲しいので、それなりの年齢で結婚したい。
 - ・ 今も家族が大好きで、親が亡くなった後、1人で生きていける自信がない
- 「相手がいれば結婚したい」（2名）
 - ・ 結婚した方が、老後が寂しくないし、人生が楽しくなりそう。
 - ・ 相手がいなければ、自分で生きていけるぐらいの稼ぎがあれば別にいい。
 - ・ 寂しがり屋なところもあるので、老後に1人はきついので結婚したい。

③ 子どもを持つこと

「欲しくない」「一人ならもちたい」「もちたい」のうちから選択してもらい、その理由を聴取した。

◎ 代表スタッフの意見

- 「欲しくない」と「もちたい」の間（1名）
 - ・ 経済面で子どもを育てるだけのお金を稼ぐことができるのかなど不安があって迷っている。
- 「もちたい」（2名）
 - ・ できれば2人。親が年を取ったとき、1人っ子だと2人分の負担がかかってしまうが、2人だと分散される。3人以上になると、習い事など費用が分散されて、1人1人にお金をかけてあげられない。母がそう言っていて、そう思った。
 - ・ 兄弟がいたほうが楽しく過ごせるし、協力し合っていける。
- 「1人ならもちたい」、「もちたい」が現在の理想（1名）
 - ・ 単純に子ども好きなので、時期が来たらと考える。
 - ・ 仕事をしながら子育てできる環境があれば子どもが欲しい。その環境については、テレビでも保育所問題などが出てくるので少し心配している。

④ ライフプラン

「仕事」「家庭生活」「プライベート」で優先順位をつけてもらい、それぞれ優先したい年齢を聴取した。

◎ 優先順位について、代表スタッフの意見

- 「プライベート」「家庭生活」が同じぐらい → 「仕事」
- 「家庭生活」 → 「仕事」 → 「プライベート」
- 「プライベート」 → 「家庭生活」 → 「仕事」
 - ・ すべてそれほど差がなく、同じくらい頑張りたい。
- 「仕事」 → 「プライベート」 → 「家庭生活」
 - ・ 結婚する前に仕事での経験をしておきたい。子どもを産んだ後も復帰できるくらい仕事の経験を積んでおきたい。

◎ 結婚する年齢について、代表スタッフの意見

- 20代で結婚しているだろう（3名）
- 30代で結婚しているだろう（1名）
 - ・ 就職を希望している業界は、適齢期を逃して、結婚相談所で知り合った人がすごく多い。もしバリバリ働いたら適齢期を逃してしまうかもしれない。

※ その他議員との意見交換

1) 海外から見た日本について

（議員）

- ・ 海外からの視点で日本を見たとき、感じることや考えることがあれば聞きたい。

（代表スタッフ）

- ・ 日本の公共交通機関はアメリカと比べ物にならないくらい便利。町もきれい。アメリカは車社会で、都市に公共交通機関があっても安全性が心配で、暗くなったら使わない方がいいと言われる。その点、神戸は終電でも安全だ。

（議員）

- ・ 少子化になっていない国と、日本との違いや問題は、外から見て何かあるか。

（代表スタッフ）

- ・ 人口減少に関しては、日本のおもてなし精神や観光地が衰退していつてしまうのかなとか、アメリカのようにたくさん移民がいて、色々な文化がある場所にしてみてもいいけど、それで今の日本の形が成り立っていくのか等の意見がある。
- ・ ヨーロッパでは人口減少がすごく進んでいるのでどうしようかという話を聞いたが、その中でも日本はトップレベルで急速に高齢化社会が進んでいると言われていた。

2) 外国人の増加について

(議員)

- ・空港の国際化もあり、市内の外国人は、観光客、定住外国人ともに増加が想定されるが、どう感じるか。

(代表スタッフ)

- ・良い点は、人口・働き手が増えること。不安は、治安の問題以外は思いつかない。
- ・治安に関して、例えば、世界的に見て日本は物価が安いと言われている。安いからという理由で神戸に来る人が増えると、マナーや治安が悪くなる。治安は日本のいい所で、そこで生まれ育ったので、これ以上悪化することは怖い。
- ・外国人の増加は賛成。来日して神戸で子育てしている家族の知り合いがいるが、神戸で育った子たちは、性格とか人となりは完全に日本人と変わらない。日本の教育で育った子は日本のマナーを学んで育ちやすいと思うし、その点はあまり心配していない。むしろ、来日当初の何も分からない状態の方が増える方が心配。

3) 仕事と子育ての両立について

(議員)

- ・子どもを育てながら仕事をする環境に不安があるとのことだが、夫が子育ての負担を多く持ってくれる等の希望などがあれば教えてほしい。

(代表スタッフ)

- ・出身校は、医学系など、自分のキャリアを積んでいきたいと考える子が多く、結婚・出産の時期の問題で、子どもをあまり欲しくないという子も多かった。自分のキャリアを積みたいからこそ、子どもを諦めるという方も結構いるのではないかな。

(議員)

- ・将来の子育てを、こういう形でしていこうというイメージはあるか。

(代表スタッフ)

- ・共働きになると思うので、出来る部分をお互いに分担していければいい。

(議員)

- ・私たちの世代では、仕事がしたくても子どものことは母親が多く負担することが当たり前のような感覚で、子どもがもっと欲しいけど、やりくりができないので持てないのが悩みだった。もう少し進んでいるかと思ったが、そこまでの希望が持てる社会になっていないのかなと思った。男性がもっと負担するイメージが持てる社会になってほしい。

(代表スタッフ)

- ・男性の育休も少しずつ広がってきていると思うが、実際どれくらい浸透しているかが分からない。
- ・女性の場合、仕事で昇格するかどうかの分岐点と、出産適齢期が重なる。出産適齢期は動かせない。また、新入社員が採用後すぐに産休に入られると迷惑という声を聞くと、やっぱり迷惑なのかなと思う。企業である以上は利益を生むために仕方のない部分はあるが、それが少し変わっていったら、出産適齢期と仕事が頑張れる時期がずれたらいいと思う。

4) 神戸に住み、神戸で子どもを持つという選択肢について

(議員)

- ・私が大学生のときは卒業して神戸に住む選択肢はなかった。企業はやはり東京に多い。将来設計の中で、神戸に住み、神戸で子どもを持つという選択肢はあるか。

(代表スタッフ)

○ 選択肢としてない 1名

- ・神戸で働きたいというのはあるが、神戸で働いてから海外または東京に行くか、最初から東京に行くかと考えていて、神戸で子育てをするイメージがない。将来的に子育て世帯により政策があれば神戸でもいい。

○ 選択肢としてある 3名

- ・将来は絶対に神戸で働きたい。
- ・日本の神戸以外に観光に行っても、人も多いし、ちょうど良い都市が神戸かなと思う。生まれも育ちも神戸で住みやすいと感じている。今まで神戸の町で出会った人たちも良かったし、環境面がよい。
- ・神戸は公立高校でもレベルの高いところに行ける。東京では、小学校から受験が当たり前。子どもに受験させてとか考えられないし、子どもにとっても、親が私立出身の子に比べて不利になると思うので、東京で子育てをしたくない。神戸、大阪、京都という選択肢があるが、仕事との両立を考えると、子どもを親に頼ることもできるので、現実的に自分がしたいことを続けられるのは神戸に住み続けることかなと思う。

5) 子育て支援策について

(議員)

- ・長田区に住んでいると近くに何でもあるし、保育施設も空きがないわけではない。子育て支援で何を充実させていったらいいのかと常に悩んでいる。何かあれば教えてほしい。

(代表スタッフ)

- ・区によって進路選択の情報格差がある。東灘区では中学受験する人も多いし、公立に行く人もいるし、いろんな選択肢がある。情報が西側、北側に広がれば、選択肢が増えるのかなと思う。
- ・北区では三田に行ってしまう人が多い。高校3年生の秋頃に通学定期券の補助が始まったが、三田であれば自転車で通学できる。御三家のレベルの高い高校に進学できる子でも、三田の高校に進学する子が多かった。高校は南に通ったが、南とは公立中学のレベルも定期テストのレベルも違うと感じた。

6) 老後について

(議員)

- ・結婚の理由について、老後を心配することが意外に感じた。私のときは、そんな先のことまで考えてなかった。一緒に暮らしたいと思ったからという理由だけで、共同で生活するという意識も薄かったので、結婚したら助かると思っていた。なぜ、老後のことを考えるようになったのか。

(代表スタッフ)

- ・老後を迎えた方で子どもがいる人、いない人、結婚していない方、その年代の人でもSNSで発信しているし、それが流れてくる。

(議員)

- ・確かに老後のことを考えたら結婚しておいた方がいいよと言いたくなる。でも、そういうことが知られていることが不思議に思った。

(代表スタッフ)

- ・SNSもあるし、授業でも少子高齢化にフォーカスすることが増えている。老老介護とか、授業で取り扱われる。必然的に、ぼんやりとそういう感じなのかと思う。

(議員)

- ・介護する側、される側、どちらなのか。

(代表スタッフ)

- ・介護する側になってもされる側になっても、二人とも年を取っていくのか、施設に行くのか、助け合って生きていくのか、体が動かなくなってきたら生活面も大変だと思うので。実際は分からないが、授業などを聞いていて率直な感想。

(議員)

- ・私たちの世代は、子どもを産むのは老後の生活を見てもらうためだった。老後の生活を支えるのはパートナーではなく、子どもだったが、子どもに面倒を見てもらうという話はないのか。

(代表スタッフ)

- ・子どもに面倒を見てもらう方も多いが、親戚などを見ると、自分で施設に入っている人が多い。自分は会いに来てほしいという気持ちはあるが、周りの人に迷惑をかけずに、自分で稼いだお金で老人ホームに入れたらいいなと思う。

7) 交通施策について

(議員)

- ・交通の便について意見があったが、交通の便は良くなることに越したことはない。ただ、バス事業であれば赤字事業で、最近値上げをした。便数を増やすと赤字が増える。それでも充実させるべきか、現実的な兼ね合いはあるか。

(代表スタッフ)

- ・バスは、それほど高くないと思うが、これ以上値上がりすると、使う人が減るのかなと思う。神戸電鉄も高いと言われている。バスも値上がりすると使う人がいなくなる。支援金とかあったらいいのかなと思う。

8) その他神戸に期待すること、頑張ってもらいたいこと

(議員)

- ・その他神戸に期待していること、頑張ってもらいたいことはあるか。

(代表スタッフ)

- ・期待することは、神戸の再開発でもっと住みやすい環境になること。
- ・空港の国際化で神戸が世界の窓口になる、もっと神戸が有名な都市になっていくのかなと思う。
- ・阪神・淡路大震災の教訓が、これからもつながってほしい。
- ・頑張ってもらいたいことは、若い人が神戸に入ってきて子育てをしたいと思える環境にすること。海外の人も増えてきているので、住みやすい環境を整えること。神戸独自の取組で、神戸の人に外を見る機会（留学支援金など）を提供してほしい。
- ・子育て支援について、児童館も地域によって格差があるので、その格差をなくしてほしい。ユースステーションが各区に1つあると思うが、中高生が勉強しやすい環境がもう少し増えたらいい。
- ・徒歩圏内に自習スペースがあったらいいと思う。センター街にはあるが、北区にはあまりない。一番近いところは、すぐいっぱいになるし、そこまで交通費もかかる。
- ・大学まで頑張って一流企業に就職しようとするとうとう東京に行くことになるので、一流企業がもっと神戸にあったら嬉しい。
- ・期待していることは、もっと交通の便がよくなること。
- ・頑張ってもらいたいことは、子育て世帯を呼び込むことだが、子育て政策は、お金を配るのではなく、子どもを預ける場所や勉強スペースなど、施設を造る政策の方がよいと思う。

(2) 結婚、子育て等に関する高校生意識調査

令和7年1月14日から令和7年1月31日（金）までの間、市立高校2年生を対象とした高校生意識調査を実施した。

① 調査結果の概要・政府統計との比較

%を表示していない項目は複数回答項目であり、原則上位3項目のみを記載。

1) 回答率

35.0%（1,872名中回答者656名（男子65%、女子31%、回答しない4%））

2) 結婚観について

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| ・理想の年齢までに結婚したい | 30% |
| ・相手が見つければ結婚したい | 42% |
| ・仕事や自分の生き方と両立できないならすぐに結婚したいとは思わない | 18% |
| ・一生結婚したいとは思わない | 8% |
| ・その他 | 2% |

調査結果では、「理想の年齢までに結婚したい」と「相手が見つければ結婚したい」を合わせると全体の7割超となっているものの、「すぐに結婚したいとは思わない」と「一生結婚したいとは思わない」を合わせると全体の1/4を占めている。

一方、2020（令和2）年国勢調査によると、未婚率は男性が31.9%、女性が23.3%であり、今回の調査結果ともそれほど乖離していない。

3) 結婚したい理由、結婚に対する良いイメージ

- ・愛情を感じている人と暮らせる（269）
- ・自分の子どもや家族を持てる（219）
- ・人生を豊かにする（211）

4) 結婚したくない理由、結婚に対する悪いイメージ

- ・金銭的な裕福さが失われる（165）
- ・特に、したくない理由、悪いイメージはない（150）
- ・家族を支える責任が生じ気楽さが失われる（135）

5) 結婚年齢について 「理想の結婚年齢がある」との回答（226）のうち多いもの

- ・ 25 歳（74）
- ・ 29 歳（26）
- ・ 26 歳（24）

調査結果では、全体の半数以上が 20 代で結婚するのが理想だと考えている。
一方、厚生労働省「人口動態統計（確定数）」によると 2023（令和 5）年の平均初婚年齢は夫が 31.1 歳、妻が 29.7 歳となっている。

6) 結婚につながる出会いについて

- ・ 自然な出会いによる恋愛がよい（483）
- ・ 学校や職場で出会うのがよい（353）
- ・ 親戚、友人、知人等の紹介がよい（189）

7) 子どもの人数について

- ・ 2 人（242）
- ・ 子どもは欲しいが特に人数に希望はない（146）
- ・ 子どもは欲しくない（98）
- ・ 3 人以上（50）
- ・ 1 人（43）

厚生労働省「人口動態統計」によると、1 人の女性が一生のうちに産む子どもの数の指標となる「合計特殊出生率」は 2023（令和 5）年に 1.20 となり、8 年連続で前の年を下回り、過去最低となっている。

8) 子どもの人数を 1 人とした理由

- ・ 仕事と子育てを両立できそうにない（19）
- ・ 子育てと教育にお金がかかりすぎる（19）
- ・ 将来の収入に不安がある（14）

9) 子どもが欲しくない理由

- ・ 子どもを持つ積極的理由が見いだせない（36）
- ・ 子育てに自信がない（34）
- ・ あまり子どもが好きではない（32）

10) 子どもが欲しい理由

- ・ 子どもが好きだから（278）
- ・ 生活が楽しく心が豊かになるから（255）
- ・ 好きな人との子どもがもちたいから（167）

11) 夫婦・パートナーとの役割分担について

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」との考え方についてどう思うか。

- | | |
|------------------|-----|
| ・ そう思わない | 45% |
| ・ どちらかといえばそう思わない | 25% |
| ・ どちらかといえばそう思う | 18% |
| ・ そう思う | 12% |

18 歳から 29 歳の男女に対して内閣府が行った同様の調査結果（2022（令和 4）年 11 月）によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「反対」41.2%、「どちらかといえば反対」38.6%、「どちらかといえば賛成」16.5%、「賛成」2.2%となっており、比較すると、今回の調査結果は肯定意見がやや多い印象である。

12) 結婚後の収入に関する自分や結婚相手の役割について

- | | |
|--|-----|
| ・ 収入割合に関係なく夫婦ともに働けたらいい | 33% |
| ・ 自分（又は相手）が多くを稼ぐが、相手（又は自分）も不足分やゆとりを補う程度に働いてほしい | 29% |
| ・ 夫婦で同じくらいの収入を得られたらいい | 20% |
| ・ 収入の大半は自分（又は相手）が稼ぎ、相手（又は自分）は専業主婦（夫）がよい | 17% |
| ・ その他 | 1 % |

内閣府の「男女共同参画白書 令和 4 年版」（2022 年）によると、働く夫と専業主婦の世帯は減少し続けているが、共働き世帯は増加しており（2001 年から 2021 年にかけて約 1.5 倍）、夫婦のいる世帯全体の約 7 割に達している。

13) 仕事と家庭・子育てについてどちらを優先したいか

- | | |
|-------------------------|-----|
| ・ 仕事と家庭生活・子育てのどちらも両立したい | 53% |
| ・ 家庭生活・子育てを優先したい | 33% |
| ・ 仕事を優先したい | 12% |
| ・ その他 | 2 % |

14) 自由記入について

将来の自身の結婚や子育てに対する不安や心配、現在の子育て環境に対する国や自治体による支援や周囲の理解など、社会環境の整備が十分でないなど、156 件の意見が寄せられた。

② 調査の詳細 別紙 A 1・A 2 のとおり

3 委員所見

・山下 てんせい

まず、結婚に関しては、全体的にポジティブな意見が多い印象を受ける。また、高校生意識調査において、理想の結婚時期も20代後半との回答が大半であったため、さほど悲観する結果ではない。

ただし、高校生の回答のうち、概ね四分の一が「結婚しないかもしれない」である。その理由として、「出会いが無さそう」、「異性とうまく付き合えない」という意見が大半であることから、学生の時期からのコミュニケーショントレーニングや、気遣いの教育に力を入れるべきではないかと考える。

例えば、コロナ禍の時期に、航空会社のフライトアテンダントがマナーや気遣いの講習を実施することがちょっとしたブームであったが、こういった機会を若いうちに与えてはいかがかと提案する。

次に、子供を持つことや結婚生活については、やはり世帯収入や生活に対して不安を持っている傾向が強い。また、女性ならではの意見として、キャリア形成期と出産時期が重なることを課題視する意見があったことは見逃すことができない。

子育てや教育に対する財政的負担については、国や地方自治体の支援が以前に比べ大幅によくなっていると思うが、それをもってしても不安に思う背景は何か、ということをより深く検証する必要があるだろう。

例えば、高校生意識調査の中で、子供を持つことについて、「仕事と子育てを両立できそうにない」という回答があるが、子育てをした経験のない高校生からこのような回答が当たり前のように選ばれる理由がどこにあるのだろうか。また、結婚に対してはポジティブであるが、人生に対しては現実的な捉え方をする傾向がある点も興味深い。こういった原因究明まで深掘した調査・研究を、機会があれば行ってみたいと思う。

・吉田 謙治

ある二十歳（はたち）の女性の意見。

結婚はする。その理由は「高齢になったとき一人では寂しいから」と伺った。もうすぐ古希を迎える小生には、なるほどそうだよと思うものの、二十歳のころは、異性に憧れ、結婚の動機は一緒にいたいと思ったからで、情動の結果だと思ってきた。しかし今の世代はなかなか大人びている。

また、子育てについてはたいへんだというイメージが強いようだ。

まだ結婚する前からそのようなイメージをもっている。事実、手間も暇もお金もかかる。自由はきかなくなる。これは事実。

しかし、その大変さ以上にやりがいもある。どうもイメージ先行、「耳年増」的状态に陥っているのではないか。

一方、社会全体が人口減少に悩み、子育て支援に遅ればせながら全力を挙げている。少子化対策は国も地方も行政の最大課題になっている。それだけに子育て世帯を中心にどんどん新しい支援策が打ち出されている。

しかし、あまりに矢継ぎ早に支援策が出るためか、肝心の子育て世代には十分知られていな

いようだ。

子育て、老後の心配など人生の苦勞話ばかりが頭を占め、人生のやりがいやその支援策についてのイメージ形成がなされていないように思う。

SNSが人の意識、イメージづくりに良くも悪くも影響力大とするなら、少子化対策の重要な一手はSNS対策であろうか。

ただ、課題の根本は、人の幸福とは何かということ。

改めて哲学、宗教の意義も問われねばならないと思う。

・平井 真千子

神戸に対するイメージは総じてポジティブに捉えているようだった。印象に残ったのは郊外に住む方々からは公共交通やその他のインフラの面で地域格差を感じているとの意見が目立ったことだ。より利便性の高い地域を選びたいというより、生まれ育った愛着のある地域と都心部の地域格差を埋めてほしいという、行政としては応えにくい希望を持たれており、解決が難しい課題と思う。

また、ヒアリングした全員が将来結婚や出産を望んでいるものの、働き方や子育て支援への不安は私の想像以上だった。子育てに望む支援を具体的に聞くと、すでに神戸では叶えられることも含まれている。当事者になってみないと支援が充実していることは実感しにくいのだろうが、子育てに前向きなイメージを持っていただくためには、若い世代にも神戸の子育て環境についての周知は必要と感じた。また、結婚や出産によって仕事のキャリアが中断、挫折することへの不安についても、私の世代と変わることのない感覚であることにショックを受けた。出産に関わる休業や柔軟な働き方を可能とする制度は、近年整えられてきたものの、まだまだ職業による差もあるし、男性より女性に家事や子育ての負荷が重く偏っているという社会風土が根強いということ、若い世代もいまだ現実として感じているのだ。国が取り組む「異次元の少子化対策」は、こうした社会課題に正面から向き合っていると言えるだろうか。社会で活躍する上で結婚や出産が足枷とを感じるような寂しい文化の払拭に、まだ努力が必要と痛感した。

・よこはた 和幸

神戸は23大学7万人の学生を有する大学都市です。しかし、卒業後、神戸市内に住まないで域外に流出するいわゆる転出超過の市となっています。人口減少の中、卒業後に神戸で就職し、結婚し、子育てしていただくべく連なるパッケージ施策が改めて必要と感じました。

私は、神戸在住で西宮の大学に通っていました。希望職種上、神戸で就職する予定はなかったのですが、多くが、卒業後も神戸で結婚し子育てし住み続けたいという希望を持たれていました。神戸に対する愛着があるように感じました。

2025年神戸市はたちを祝う会の代表スタッフとの意見交換は新鮮かつ意義あるものでありました。女性学生の方ばかりでしたので、男子学生の意見もいただければより良いものになったのではないかと感じました。

結婚しても親に頼りたいこと、居住地域と都市部との公共交通のアクセス強化を望まれるなど、基本は神戸に住み続けたいという意思の表れであろうかと思います。

卒業後に神戸で定着してもらえるように政・産・官・学が危機感をもって当たらねばと感じました。

・原 直樹

2025 年神戸市はたちを祝う会代表スタッフの方々との意見交換会において、結婚や子育てに関する意見を伺ったところ、結婚については一部ネガティブな意見もあったが、誰かと一緒に過ごしたいから結婚したい、子供が欲しいから結婚したいというポジティブな意見が多くあった。

子育てに関しても自分が 2 人兄弟だったから 2 人持ちたい、兄弟がいた方が楽しく過ごせるから 2、3 人欲しいというポジティブな意見が多くあった。

基本的に結婚や子供に関しては、ポジティブな意見が多かったが、子供は欲しいと思うものの自分がきちんと収入を得られるか心配などといった将来に対する不安が強いという印象があった。

子育てに限らず、将来の自分が受け取る年金について心配したり、神戸空港国際化後の外国人増加による治安の悪化を心配したりと、将来に対して非常に強い不安や心配を感じているようであった。

将来に対して希望を見出している意見を聞けなかった点は残念であったが、出生数が減っている中で、結婚や子育てに対してポジティブな意見が多かった点は意外であると感じた。

そのため、子育て支援などの若者支援の施策の強化とともに、バブル崩壊後の長い景気低迷による将来不安を払拭できれば、出生率が今よりも好転する可能性はあると思うが、失われた 30 年を経験している中で、その払拭にはまだ時間がかかりそうである。

結婚、子育て等に関する高校生意識調査

将来の結婚に関して、子どもをもつことや、夫婦間、またはパートナーとの役割分担、ワーク・ライフ・バランスについてお尋ねします。本調査への回答は任意です。また、質問の一部を回答しないこともできます。質問数は最大で 22 問です。

1. あなたご自身についてお聞きします。あなたの性別についてお聞かせください。
1. 男 2. 女 3. 回答しない
2. あなたの年齢をお聞かせください。
1. 15 歳 2. 16 歳 3. 17 歳 4. 18 歳 5. その他 ()
3. あなたのお住まいの地域 (区・神戸市以外は市町村) をお聞かせください。
1. 神戸市東灘区 2. 神戸市灘区 3. 神戸市中央区 4. 神戸市兵庫区
5. 神戸市北区 6. 神戸市長田区 7. 神戸市須磨区 8. 神戸市垂水区
9. 神戸市西区 10. その他 ()
4. ご家族の人数 (あなたご自身を含む) をお聞かせください。
1. 1 人 2. 2 人 3. 3 人 4. 4 人 5. 5 人
6. 6 人 7. 7 人 8. その他 ()
5. あなたのご家族 (同居されている方) をお聞かせください (該当するものをいくつでもお選びください)。選択肢がない場合は「その他」にご記入ください。
1. 父親 2. 母親 3. 兄弟姉妹 4. 祖父 5. 祖母
6. その他 ()
6. ご家族に「兄弟姉妹」がいる場合、その人数をお聞かせください。
1. 1 人 2. 2 人 3. 3 人 4. 4 人 5. その他 ()
7. ご家族に「その他」を選択された場合、その人数をお聞かせください。
1. 1 人 2. 2 人 3. 3 人 4. 4 人 5. その他 ()
8. 結婚についてお聞きします。あなたご自身の結婚について、どのように考えておられますか (お気持ちに近いものを 1 つだけ選択してください)。
1. 理想の年齢までに結婚したい
2. 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
3. 相手が見つかって、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない
4. 一生、結婚したいとは思わない
5. その他 ()

9. 結婚したいと思う理由、または結婚に対する良いイメージはどのようなものがありますか。結婚したいと思われない方も該当するものがあればお答えください。

最大2個のオプションを選択してください。

1. 自然なことだと思う
2. 人生を豊かにする
3. 経済的に余裕が持てる
4. 社会的信用を得たり、周囲と対等になれたりする
5. 精神的な安らぎの場が得られる
6. 愛情を感じている人と暮らせる
7. 自分の子どもや家族を持てる
8. 親を安心させたり、周囲の期待に応えられたりする
9. 特に理由、または良いイメージはない
10. その他 ()

10. 結婚したいとは思わない理由、または結婚に対する悪いイメージはどのようなものがありますか。結婚したいと思っている方も該当するものがあればお答えください。

最大2個のオプションを選択してください。

1. 結婚することを重視していない
2. 仕事と結婚を両立できそうにない
3. 自分の生き方と結婚を両立できそうにない
4. 金銭的な裕福さが失われる
5. 友人等との広い人間関係が保ちにくい
6. 家族を支える責任が生じ、気楽さが失われる
7. 職業を持てず、社会とのつながりが保ちにくくなる
8. 現在の家族とのつながりが保ちにくくなる
9. 特に理由、または悪いイメージはない
10. その他 ()

11. ご自身の結婚について理想と思う結婚年齢がありますか。* 必須(回答で次の質問が決まる)

1. 理想の結婚年齢がある
2. 特に理想はない →13 へ
3. 回答しない →13 へ

12. 理想の結婚年齢を教えてください。

()

13. 結婚や理想の結婚年齢に対するご自身の予想をご回答ください（お気持ちに近いものを1つだけ選択してください）。* 必須（回答で次の質問が決まる）

- 1. 理想の年齢で結婚すると思う →15 へ
- 2. 結婚年齢に理想はないが、いずれ結婚はすると思う →15 へ
- 3. 理想の結婚年齢よりも遅くなりそう
- 4. 結婚しないかもしれない
- 5. 結婚するつもりはない
- 6. 回答しない →15 へ
- 7. その他（ ） →15 へ

14. 「理想の年齢より遅くなりそう」「結婚しないかもしれない」「結婚するつもりはない」という理由をご回答ください（該当するものをいくつでもお選びください）。

- 1. 結婚したいと思う相手と出会いそうにないから
- 2. 異性とうまく付き合えないから
- 3. 仕事や学業を優先したいから
- 4. 結婚後の生活と自分の生き方を両立できそうにないから
- 5. 結婚資金や結婚後の収入に不安があるから
- 6. 自分に自信を持ってないから
- 7. 出産や子育てに不安があるから
- 8. 結婚するつもりがないから
- 9. その他（ ）

15. すべての方にお聞きします。結婚につながるような出会いについて、どのように考えますか（該当するものをいくつでもお選びください）。

- 1. 自然な出会いによる恋愛がよい
- 2. 学校や職場で出会うのがよい（でもかまわない）
- 3. 親戚、友人、知人等の紹介がよい（でもかまわない）
- 4. アプリやオンラインサイトのマッチングサービスがよい（でもかまわない）
- 5. 対面式の婚活パーティーや出会いイベントがよい（でもかまわない）
- 6. 結婚したいとは思っていない
- 7. その他（ ）

16. 子どもをもつことについてお聞きします。希望する子どもの人数は何人ですか。

*** 必須（回答で次の質問が決まる）**

- 1. 1人
- 2. 2人 →19へ
- 3. 3人以上 →19へ
- 4. 子どもは欲しいが、特に人数に希望はない →19へ
- 5. 子どもは欲しくない →18へ
- 6. 回答しない →20へ

17. 希望する子どもの数を2人以上ではなく「1人」とされた理由はどのようなことでしょうか（該当するものをいくつでもお選びください）。 →19へ

- 1. 仕事と子育てを両立できそうにないから
- 2. 自分の生き方と子育てを両立できそうにないから
- 3. 将来の収入に不安があるから
- 4. 子どもを養う責任が増え、気楽さが失われるから
- 5. 子育てや教育にお金がかかりすぎると思うから
- 6. 妊娠・出産に対して自信がないから
- 7. 子育てに自信がないから
- 8. あまり子どもが好きではないから
- 9. 日本社会は子どもや子育て世帯に冷たいと感じるから
- 10. その他（ ）

18. 「子どもは欲しくない」とされた理由はどのようなことでしょうか（該当するものをいくつでもお選びください）。 →20へ

- 1. 子どもをもつ積極的な意味が見出せない
- 2. 仕事と子育てを両立できそうにないから
- 3. 自分の生き方と子育てを両立できそうにないから
- 4. 将来の収入に不安があるから
- 5. 子どもを養う責任が増え、気楽さが失われるから
- 6. 子育てや教育にお金がかかりすぎると思うから
- 7. 妊娠・出産に対して自信がないから
- 8. 子育てに自信がないから
- 9. あまり子どもが好きではないから
- 10. 日本社会は子どもや子育て世帯に冷たいと感じるから
- 11. 結婚するつもりがないから
- 12. その他（ ）

19. 子どもが欲しいと思う理由はどのようなことでしょうか（該当するものをいくつでもお選びください）。

1. 子どもが好きだから
2. 周囲に認められるから
3. 生活が楽しく心が豊かになるから
4. 老後の支えになるから
5. 将来、社会の支えになるから
6. 夫婦関係を安定させるから
7. 好きな人との子どもをもちたいから
8. 親など周囲が望むから
9. その他 ()

20. 夫婦間、またはパートナーとの役割分担やワーク・ライフ・バランスについてお聞きします。「結婚したら夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どのように思われますか（お気持ちに近いものを1つだけ選択してください）。

1. そう思う
2. どちらかと言えばそう思う
3. どちらかと言えばそう思わない
4. そう思わない

21. 結婚後の生活のための収入を得ることについて、自分や結婚相手の役割の理想についてどのように思われますか（お気持ちに近いものを1つだけ選択してください）。

1. 必要な収入の大半は自分（または結婚相手）が稼ぎ、結婚相手（または自分）は専業主婦（夫）となるのがよい
2. 自分（または結婚相手）が多くを稼ぐが、結婚相手（または自分）も不足分やゆとり分を補う程度に働いてほしい（または働きたい）
3. 夫婦で同じくらいの収入を得ることができたらいい
4. 収入の割合に関係なく夫婦ともに働けたらいい
5. その他（ ）

22. 仕事と家庭生活や子育てについて、どちらを優先したいですか（お気持ちに近いものを1つだけ選択してください）。

1. 仕事を優先したい
2. 家庭生活や子育てを優先したい
3. 仕事と家庭生活や子育てのどちらも両立したい
4. その他（ ）

23. 「結婚や子育てに関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことがありましたら、自由にご記入ください。

--

未来都市創造に関する特別委員会 「結婚、子育て等に関する高校生意識調査」調査結果

1. 調査期間 令和7年1月14日（火）～1月31日（金）

2. 回答者 市立高校2年生 656人
※令和6年5月1日現在 神戸市立学校生徒数 1,872人
回答率 35.0%

3. アンケート結果

(1) あなたご自身についてお聞きします。あなたの性別についてお聞かせください。

	回答	割合		人数
男	420人	65.1%	回答	645人
女	201人	31.2%	無回答	11人
回答しない	24人	3.7%	計	656人
合計	645人	100.0%		

(2) あなたの年齢をお聞かせください。

	回答	割合		人数
16歳	124人	19.2%	回答	647人
17歳	512人	79.1%	無回答	9人
18歳	3人	0.5%	計	656人
その他	8人	1.2%		
合計	647人	100.0%		

(3) あなたのお住まいの地域（区・神戸市以外は市町村）をお聞かせください。

	回答	割合		人数
東灘区	67人	10.3%	回答	650人
灘区	55人	8.5%	無回答	6人
中央区	44人	6.8%	計	656人
兵庫区	46人	7.1%		
北区	66人	10.2%		
長田区	37人	5.7%		
須磨区	80人	12.3%		
垂水区	62人	9.5%		
西区	92人	14.2%		
その他 ※	101人	15.5%		
合計	650人	100.0%		

※その他 明石市(22)、芦屋市(15)、西宮市(15)、尼崎市(9)、三木市(8)、姫路市(6)、加古川市(5)、淡路市(4)、伊丹市(4)、三田市(3)、宝塚市(3)、高砂市(2)、たつの市(1)、相生市(1)、宍粟市(1)、稲美町(1)、大阪市(1)

(4) ご家族の人数(あなたご自身を含む)をお聞かせください。

	回答	割合
1人	2人	0.3%
2人	19人	2.9%
3人	89人	13.8%
4人	313人	48.4%
5人	155人	24.0%
6人	49人	7.6%
7人	18人	2.8%
8人	2人	0.3%
合計	647人	100.0%

	人数
回答	647人
無回答	9人
計	656人

(5) あなたのご家族(同居されている方)をお聞かせください。(複数回答)

	回答	割合 (654人中)
父親	532人	81.3%
母親	640人	97.9%
兄弟姉妹	520人	79.5%
祖父	29人	4.4%
祖母	50人	7.6%
その他	10人	1.5%
合計(延人数)	1,781人	—

654人

	人数
回答	654人
無回答	2人
計	656人

(6) ご家族に「兄弟姉妹」がいる場合、その人数をお聞かせください。

回答者全体

	回答	割合
1人	335人	58.5%
2人	151人	26.4%
3人	50人	8.7%
4人	29人	5.1%
5人	8人	1.4%
合計	573人	100.0%

※「なし」「0人」等の回答 7件を除く

設問(5)で、「兄弟姉妹」を選択した520人の回答

	回答	割合
1人	305人	58.8%
2人	136人	26.2%
3人	45人	8.7%
4人	25人	4.8%
5人	8人	1.5%
合計	519人	100.0%

※上記の他、無回答 1人あり

(7) ご家族に「その他」を選択された場合、その人数をお聞かせください。

回答者全体

	回答	割合
1人	22人	73.3%
2人	2人	6.7%
3人	2人	6.7%
4人	3人	10.0%
5人	1人	3.3%
合計	30人	100.0%

※「なし」「0人」等の回答 7件を除く

設問(5)で、「その他」を選択した10人の回答

	回答	割合
1人	6人	100.0%
合計	6人	100.0%

※上記の他、無回答 4人あり

(8) 結婚についてお聞きします。あなたご自身の結婚について、どのように考えておられますか。

	回答	割合
理想の年齢までに結婚したい	195人	30.2%
年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	270人	41.8%
相手が見つかって、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない	118人	18.3%
一生、結婚したいとは思わない	51人	7.9%
その他 ※	12人	1.9%
合計	646人	100.0%

	人数
回答	646人
無回答	10人
計	656人

- ※その他
- ・結婚したいと思ったことがない
 - ・結婚したくないわけではないが結婚できるほどちゃんとした人ではないので結婚はしないだろうと思う
 - ・言葉にするの簡単だけれども実際に行動するとなると難しい
 - ・今のところ結婚したいとは思わない
 - ・相手がいないので現実味がない
 - ・どちらでもいい(2)
 - ・その他(5) (わからん、何も思わない、考えない、回答しない、特に無し)

(9) 結婚したいと思う理由、または結婚に対する良いイメージはどのようなものがありますか。

結婚したいと思われない方も該当するものがあればお答えください。

(複数回答、最大2つまで)

	回答	割合 (634人中)
自然なことだと思う	123人	19.4%
人生を豊かにする	211人	33.3%
経済的に余裕が持てる	27人	4.3%
社会的信用を得たり、周囲と対等になれたりする	25人	3.9%
精神的な安らぎの場が得られる	119人	18.8%
愛情を感じている人と暮らせる	269人	42.4%
自分の子どもや家族を持てる	219人	34.5%
親を安心させたり、周囲の期待に応えられたりする	51人	8.0%
特に理由、または良いイメージはない	57人	9.0%
その他 ※	4人	0.6%
合計 (延人数)	1,105人	—

634人

	人数
回答	634人
無回答	22人
計	656人

- ※その他
- ・自分を認めることができそうだから
 - ・孤独死したくないから
 - ・社会に貢献できる
 - ・幸福

(10) 結婚したいとは思わない理由、または結婚に対する悪いイメージはどのようなものがありますか。
結婚したいと思っている方も該当するものがあればお答えください。
(複数回答、最大2つまで)

	回答	割合 (519人中)
結婚することを重視していない	112人	21.6%
仕事と結婚を両立できそうにない	59人	11.4%
自分の生き方と結婚を両立できそうにない	111人	21.4%
金銭的な裕福さが失われる	165人	31.8%
友人等との広い人間関係が保ちにくい	45人	8.7%
家族を支える責任が生じ、気楽さが失われる	135人	26.0%
職業を持たず、社会とのつながりが保ちにくくなる	6人	1.2%
現在の家族とのつながりが保ちにくくなる	9人	1.7%
特に理由、または悪いイメージはない	150人	28.9%
その他 ※	15人	2.9%
合計 (延人数)	807人	—

519人

	人数
回答	519人
無回答	137人
計	656人

- ※その他
- ・結婚してからの現実と理想のギャップによってのストレスが増える
 - ・鎖のようなイメージを持っていて、一度結んだら自分の意思ではほどけないもの。
 - ・老後介護しなければならない人数が増えすぎてしまう。
 - ・喧嘩など対立が起きる
 - ・趣味に金を使いたい
 - ・人にお金をかけたくない
 - ・ストレス
 - ・めんどくさい
 - ・名字が変わってしまうのが嫌だ
 - ・遺産相続などの場合揉める
 - ・趣味が後回しになる
 - ・自分にそこまでの甲斐性はない
 - ・マンネリ化
 - ・相手がいない
 - ・同性婚が認められていないから。

(11) ご自身の結婚について理想と思う結婚年齢がありますか。

	回答	割合
理想の結婚年齢がある	232人	35.4%
特に理想はない	385人	58.7%
回答しない	39人	5.9%
合計	656人	100.0%

※回答 656人 (無回答なし)

(12) 理想の結婚年齢を教えてください。

設問(11)で「理想の結婚年齢がある」と回答した232人のうち
回答は 226件 【詳細は別紙A 2-1】

(13) 結婚や理想の結婚年齢に対するご自身の予想をご回答ください

(お気持ちに近いものを1つだけ選択してください)

※回答 344人(無回答なし)

	回答	割合
理想の年齢で結婚すると思う	118人	18.0%
結婚年齢に理想はないが、いずれ結婚はすると思う	215人	32.8%
理想の結婚年齢よりも遅くなりそう	78人	11.9%
結婚しないかもしれない	157人	23.9%
結婚するつもりはない	43人	6.6%
その他 ※	3人	0.5%
回答しない	42人	6.4%
合計	656人	100.0%

※その他

- ・結婚したいけどできなさそう
- ・わからない(2)

(14) 「理想の年齢より遅くなりそう」「結婚しないかもしれない」「結婚するつもりはない」と思う理由をご回答ください。(複数回答)

	回答	割合 (276人中)
結婚したいと思う相手と出会いそうにないから	128人	46.4%
異性とうまく付き合えないから	103人	37.3%
仕事や学業を優先したいから	34人	12.3%
結婚後の生活と自分の生き方を両立できそうにないから	65人	23.6%
結婚資金や結婚後の収入に不安があるから	55人	19.9%
自分に自信を持ってないから	79人	28.6%
出産や子育てに不安があるから	47人	17.0%
結婚するつもりがないから	58人	21.0%
その他 ※	9人	3.3%
合計(延人数)	578人	—

※回答 276人

設問(13)で「理想の年齢より遅くなりそう」「結婚しないかもしれない」「結婚するつもりはない」と回答した278人のうち、2人は無回答

276人

※その他

- ・幼少期から親を見ていて、結婚に対するイメージが悪いものしかないから。
- ・その時で気分が変わったり事情が変わったりで今判断できないから
- ・そんなに大勢介護することはできないと思うから
- ・コストパフォーマンスが悪いから
- ・女子友達がいらない
- ・同性婚できないから
- ・名字が変わってしまうのが嫌だから
- ・甲斐性がないから
- ・趣味のため

(15) すべての方にお聞きします。結婚につながるような出会いについて、どのように考えますか。

(複数回答)

	回答	割合 (642人中)
自然な出会いによる恋愛がよい	483人	75.2%
学校や職場で出会うのがよい（でもかまわない）	353人	55.0%
親戚、友人、知人等の紹介がよい（でもかまわない）	189人	29.4%
アプリやオンラインサイトのマッチングサービスがよい（でもかまわない）	53人	8.3%
対面式の婚活パーティーや出会いイベントがよい（でもかまわない）	57人	8.9%
結婚したいとは思っていない	73人	11.4%
その他 ※	9人	1.4%
合計（延人数）	1,217人	—

642人

	人数
回答	642人
無回答	14人
計	656人

※その他

- ・ なんでもいい (3)
- ・ どんな形でもよい、出会いはどこでも良い (2)
- ・ 異性に全く恋愛感情を抱かないから
- ・ 結婚してメリットになるものだったらなんでもいい
- ・ わからない
- ・ 特に無い

(16) 子どもをもつことについてお聞きします。希望する子どもの人数は何人ですか。

	回答	割合
1人	43人	6.6%
2人	242人	36.9%
3人以上	50人	7.6%
子どもは欲しいが、特に人数に希望はない	146人	22.3%
子どもは欲しくない	98人	14.9%
回答しない	77人	11.7%
合計	656人	100.0%

(17) 希望する子どもの数を2人以上ではなく「1人」とされた理由はどのようなことでしょうか。

(複数回答)

	回答	割合 (41人中)
仕事と子育てを両立できそうにないから	19人	46.3%
自分の生き方と子育てを両立できそうにないから	9人	22.0%
将来の収入に不安があるから	14人	34.1%
子どもを養う責任が増え、気楽さが失われるから	10人	24.4%
子育てや教育にお金がかかりすぎると思うから	19人	46.3%
妊娠・出産に対して自信がないから	3人	7.3%
子育てに自信がないから	9人	22.0%
あまり子どもが好きではないから	2人	4.9%
日本社会は子どもや子育て世帯に冷たいと感じるから	6人	14.6%
その他 ※	2人	4.9%
合計（延人数）	93人	—

※回答 41人

設問(16)で「1人」と回答した43人のうち、2人は無回答

41人

- ※その他
- ・パートナーの負担になるから
 - ・複数人を育てることで教育が分散するより一人に集中させて教育する方がより成長させることができるから

(18) 「子どもは欲しくない」とされた理由はどのようなことでしょうか。(複数回答)

	回答	割合 (96人中)
子どもをもつ積極的な意味が見出せない	36人	37.5%
仕事と子育てを両立できそうにないから	21人	21.9%
自分の生き方と子育てを両立できそうにないから	23人	24.0%
将来の収入に不安があるから	21人	21.9%
子どもを養う責任が増え、気楽さが失われるから	30人	31.3%
子育てや教育にお金がかかりすぎると思うから	27人	28.1%
妊娠・出産に対して自信がないから	20人	20.8%
子育てに自信がないから	34人	35.4%
あまり子どもが好きではないから	32人	33.3%
日本社会は子どもや子育て世帯に冷たいと感じるから	14人	14.6%
結婚するつもりがないから	30人	31.3%
その他 ※	3人	3.1%
合計（延人数）	291人	—

※回答 96人

設問(16)で「子どもは欲しくない」と回答した98人のうち、2人は無回答

96人

- ※その他
- ・一人がいいから
 - ・嫌われたくないから
 - ・生まれた段階で死ぬことが決まっているので産むのは可哀想

(19) 子どもが欲しいと思う理由はどのようなことでしょうか。(複数回答)

	回答	割合 (472人中)
子どもが好きだから	278人	58.9%
周囲に認められるから	14人	3.0%
生活が楽しく心が豊かになるから	255人	54.0%
老後の支えになるから	47人	10.0%
将来、社会の支えになるから	60人	12.7%
夫婦関係を安定させるから	53人	11.2%
好きな人との子どもをもちたいから	167人	35.4%
親など周囲が望むから	24人	5.1%
その他 ※	5人	1.1%
合計(延人数)	903人	—

※回答 472人

設問(13)で「1人」「2人」「3人以上」「子どもは欲しいが、特に人数に希望はない」と回答した481人のうち、9人は無回答

472人

- ※その他
- ・自分の趣味の世界に連れて行きたいから
 - ・名字を継がせたいから
 - ・子孫を残したいから
 - ・なんとなく
 - ・特に理由なし

(20) 夫婦間、またはパートナーとの役割分担やワーク・ライフ・バランスについてお聞きします。
「結婚したら夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どのように思われますか。

	回答	割合
そう思う	76人	12.3%
どちらかと言えばそう思う	110人	17.8%
どちらかと言えばそう思わない	152人	24.6%
そう思わない	279人	45.2%
合計	617人	100.0%

	人数
回答	617人
無回答	39人
計	656人

(21) 結婚後の生活のための収入を得ることについて、自分や結婚相手の役割の理想について
どのように思われますか。

	回答	割合
必要な収入の大半は自分(または結婚相手)が稼ぎ、結婚相手(または自分)は専業主婦(夫)となるのがよい	105人	17.2%
自分(または結婚相手)が多くを稼ぐが、結婚相手(または自分)も不足分やゆとり分を補う程度に働いてほしい(または働きたい)	177人	29.0%
夫婦で同じくらいの収入を得ることができたらいい	121人	19.8%
収入の割合に関係なく夫婦ともに働けたらいい	200人	32.7%
その他 ※	8人	1.3%
合計	611人	100.0%

	人数
回答	611人
無回答	45人
計	656人

- ※その他
- ・生活していくのに不足ないぐらいのお金があればいい
 - ・生活分は稼ぐから働きたかったら働けばいいし働かんくてもええ
 - ・いい感じに
 - ・どうでもいい
 - ・どうとも思わない
 - ・特に無し
 - ・結婚したいと思わない
 - ・その他(内容は無回答)

(22) 仕事と家庭生活や子育てについて、どちらを優先したいですか。

	回答	割合
仕事を優先したい	75人	12.3%
家庭生活や子育てを優先したい	201人	33.1%
仕事と家庭生活や子育てのどちらも両立したい	323人	53.1%
その他	9人	1.5%
合計	608人	100.0%

	人数
回答	608人
無回答	48人
計	656人

- ※その他
- ・ 場合による
 - ・ 考えた事も無い
 - ・ どうでもいい
 - ・ どちらも優先したくない
 - ・ 自分の時間
 - ・ ゲーム
 - ・ 1人で趣味
 - ・ 子供いない
 - ・ その他（内容は無回答）

(23) 「結婚や子育てに関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことがありましたら、自由にご記入ください。

回答 220件 【詳細は別紙A 2－2】

【別紙 A 2 - 1】設問 (12)

理想の結婚年齢を教えてください。

理想の結婚年齢	件数
17歳	1
18歳	1
19歳	1
20歳	3
21歳	2
22歳	9
23歳	4
24歳	20
25歳	74
26歳	24
27歳	17
28歳	26
29歳	3
30歳	13
31歳	1
35歳	2
23～25歳	2
24～25歳	2
20～26歳	1
21～25歳	1
24～27歳	1
23～28歳	1
24～29歳	1
20～30歳	1
25～30歳	2
22～32歳	1
20代前半	2
20代	4
30代	1
25歳まで	1
30歳まで	4
合 計	226

【別紙A2-2】設問(14)

「結婚や子育てに関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことがありましたら、自由にご記入ください。

※ 「ない」「特になし」等の意見64件は削除

自由意見	
1	結婚しても良いことはあるのか マニュアルもほぼない子育てをしっかりとできるのか
2	子育てには身が入らない
3	しっかり子供を育てられる環境をつくる
4	支援が薄い
5	子育てや結婚は簡単にできるものではないから少しずつ周りの人たちが協力する姿勢が必要だと思う。
6	もっと子供が育てやすい環境。姑問題、子育て支援
7	子育てにはお金がとてめにかかるので国や市がもっと全面的にサポートしてくれるようになればいいなと思います。
8	子育てをしているお母さんは本当に凄いなと思う。
9	もっとお金の面で支援して欲しい 育てやすい社会にして欲しい
10	収入が増えなければ結婚しづらく、子供ももてない
11	もっと子供を産みやすい制度や補助金を出して欲しいと思う。
12	若くして子供ができた場合に対する偏見が多いと思う。できてしまってもちゃんと愛情を持って育てることができたら良いと思う。
13	大変そう
14	恋愛って難しい
15	学費や教育費が無料になったり子供を持つ人が安全に暮らせる街になればもっと子供が増えると思う。独身者と子供を持つ親の負担の大きさが大きすぎる
16	男尊女卑、女尊男卑、モラハラなどがなくなしてほしい
17	若い世代が少子化を解決するために、老人よりも若者にお金を回したらいいと思います
18	預かる施設が増える事
19	政府が子供を作るように進めている割には子育て支援がそこまで進んでないように思える。
20	少子高齢化や晩婚化が進む現代で若者の結婚率や合計特殊出生率をもっと向上させるべきだと思う。若い世代が頑張らないと将来自分たちの世代が自分の子供を持つようになった時に我が子に負担がかかるような世の中になって欲しくないので結婚や出生率を上げて言うべきだと思う。
21	大学まで学費を無料にしてほしい
22	教育費が他の国より高い気がします
23	ほとんどの会社に休暇がもっとあればいいなと思った。
24	お金が高そう
25	子育て世帯にやさしい社会。
26	支援金をもっと給付した方がいいと思います
27	育児休暇がとれない
28	楽しく過ごしたい
29	イヤイヤ期の接仕方
30	家庭を持つことは大変である。
31	もっと子育てしやすい社会になればいいなと思う
32	もっと子育てがしやすい社会になったらいいなと思います。
33	お互いが理解できる結婚生活を作れる社会になったらいいと思いました。「母親ならこうしろ」「父親ならこうしろ」ではなく、お互いが協力して良い生活を築いていけるようにしていけたらいいと、考えました。
34	思っている以上に大変なことがあるんだろうなあ
35	子育て支援をもっと重宝すべき。
36	たのしそう
37	全ての人が家族や周囲からの目を気にせず自分のパートナー選びや結婚、子供の持つ持たないを決められるような社会になればよいと願っている。

	自由意見
38	家事は女性が行うべきという偏見。 後継は男の子だけということ。
39	男性の育児休暇について。制度としては成立しているため労働者が休暇取得を望めば、職場側は受諾しなければならないが、その分のタスクを周囲の人が代わりに背負わなければならないという問題がある。その際の仕事の引継ぎをスムーズにするには、育児休暇を取る本人はもちろん、職場側もどうサポートすべきか。
40	せーへんなあ。
41	もっと減税してその上で福利厚生や学費の補助などして欲しいです。私は今のまま社会に出て も不安が耐えられないと感じています。
42	その気になるまでわかりません
43	わかりません
44	大変そうだなと思います
45	お金くれ
46	産休や育休が増えるよう制度を変えたほうが良い 残業手当または夜勤手当が増えるとより良い社会になるかもしれない
47	結婚とか付き合うとか、永遠の愛とか言うけど所詮他人です。何かの責任を他人のために負う とか絶対に嫌です。好きなら一緒に住めばいいし、パートナーとしての関係があってもいいと 思うけど、結婚するメリットが感じられないのでしたくありません。たとえ愛する人や子供だ としても自分ではないので他人のためにお金と時間を使うのが嫌です。
48	自分は名字が変わってしまうのが嫌だから、結婚願望があまりないけど、かといって夫婦別姓 の間に生まれた子供はどっちの名字がいいのだろうという疑問はある。
49	子育ての金銭的な支援があればいいなと思います。
50	なぜ子育てをしたら仕事を辞めないといけないのか
51	独身税は導入しないほうが良いと思います。
52	子育てのサポートを増やしてほしい
53	結婚も子育てもその人自身の人生での選択なわけだから、歳の差結婚や、同性婚が日本でも当 たり前に誰にも批判されることのない普通の選択になればいいなと思った。
54	子育て支援金のようなものをできるだけ増やして、子育て支援を充実させて欲しい。
55	もっと子育てで頼れる場所があればより子育ては良いイメージが着くと思う。
56	税金払ってるから国は金をくれ
57	わからない
58	子供や子持ちに優しい世界になってほしい
59	日本のお金事情がもう少し良くなればいいなと思う
60	2人で決める
61	少子高齢化万歳
62	ユジンと結婚したい
63	子育ての支援がもっと増えて子育てしやすい社会になったらいいなと思う
64	子育て支援が必要。
65	子育てに対する全面的な金銭面支援や、学費の無償化、賃金の増加による精神的な余裕が最近 の日本には足りていない事
66	年収を増やし、消費税を減らして欲しい。
67	子供をもつことが人生の幸福に繋がるような未来になることを願う。
68	ひとりぼっちで遊んでる子供がたまにいますのでお父さんなどと笑顔で遊んでる社会になればい いなと思います
69	もっとお互いに気楽に過ごせるようになってほしいと思います。
70	今の時代は結婚詐欺など多くありますがもっと人を疑うことの無いような世の中になって欲し いと考えております。 そして、男性が仕事、女性が家事という概念を捨ててどちらも助け合っていけるような関係に なって欲しい
71	子育てしやすい
72	育児放棄がどのようにして起こるのが知りたい
73	誰と結婚するのか
74	楽しそう

	自由意見
75	子育てをもっと支援する補助金や街づくりをしてもらえると嬉しいです！
76	おかねはかかるのか知りたい
77	福利厚生をもっと熱くしてほしい
78	育児休暇を増やしたり、育児のサポートをしてくれる制度をたくさん設けるべきだと思います。
79	子供に優しい町
80	金銭面の問題や男女間の対立がSNSを中心に注目されており結婚自体にためらいがあり、結婚後も離婚など問題が多くある
81	少子高齢化が解消されるようになったらいいなと思います。
82	子供にかかるお金が多すぎる
83	お客には出来るだけ店内ではベビーカーを畳むようにしてほしい
84	休みを増やせ
85	子育て支援をやると言いながら負担ばかり増えていって2024年は過去最低の出生率をしていたので子育てする環境をもっと整えて欲しいなと思います
86	今の社会は子育てに対する福祉が少ないと感じるのでそこをより良くして欲しい
87	もっと簡単に男性でも育休を取りやすい社会になればいいと思う
88	いまの日本じゃ子供どころか結婚すら金銭的に難しいからどうかしてほしい。
89	資金援助などもっと子育てしやすくなるような社会にしてほしい
90	みんなが問題なく生活したい
91	もっと結婚や子育てに優しい世の中になればもっとよい社会を作れる
92	女性の収入あっぷ
93	子供は愚かで無知で腹が立つ。自分が悪いことをして泣いて許されると思っているのが無理。
94	もっと子どもたちが自由にのびのびとできたらいいと思う。
95	男女平等
96	がんばりまーす
97	子持ち世帯にもっと優しい社会になれば良いと思う。子供を持ったところでお金がかかり将来に期待できないから持たないという人のほうが多いと思う。
98	金がいる 老人よりこっちに金回してくれ
99	子供産んでもメリットがない
100	神戸市も明石市みたいな制作をすれば人口も増えるのではと思った
101	女だけ、男だけに偏っていない世の中。
102	主婦の皆様いつもお疲れ様です
103	親がなぜ私を産んだのか
104	Stress
105	どのように接して関係を築いて結婚してからでも幸せになれるのか
106	繊細
107	マッチングアプリの無料化
108	自分には特に縁がないと思っています
109	病院代の無償化とか子供に対しての政策を増やすべき
110	彼女が出来たら結婚について考えれそうです
111	子供を育てるために子供1人につき国から給付金的な感じでお金を渡せばいいと思う
112	子育ては大変だと思う。
113	結婚
114	お互いのわがまを認識して改善できるような社会になったらいいと思う
115	子育て支援をもっと手厚くするべき。
116	子育てする家族が、過ごしやすい社会になってほしい。
117	子育てに対して政府の対応がが遅れすぎる
118	もっと行政に子育て支援をしてほしい。
119	幸せになりたいです
120	子育てしやすい環境になったらいいな
121	大人ではなく子供を優先する社会

	自由意見
122	税金安くするか子育て支援をより充実させて欲しい
123	家事の分担方法
124	子育て支援をもっとしてほしいと思います。現状の日本の平均収入では子供の数によっては十分な子育てができないからです。
125	大変そうだな
126	子供が産みやすい社会になったらいいなと思いました
127	もっとお金がかからないようになったらいいと思う
128	入園、入学のときにあまりお金がかからないようにすればいいと思う。
129	まだ分からない
130	学費を減らして欲しい
131	社会保障が少なすぎる、その割には税金が多い。 結婚にかかる費用も高い、だから結婚する人が少なくなっている、少子高齢化が進む。
132	少子高齢化をできるだけなくしていける世の中になればいいと思う
133	育休がしっかりとれる社会
134	子供にお金がかかるので負担をへらせたい
135	子ども産みたい人たちが産めない理由がお金がないというものだと聞いたので、お金をもっと子育てに使って欲しい
136	誰もが豊かに暮らせる素晴らしい社会になったらいいなと思います。
137	マタニティブルーを無くしたい。夫婦共に協力する。
138	子供を産むことに対して抵抗がある人たちをもっと資金面で援助するのが良いと思う。
139	子育てのための支援がもっとしっかりしていないと、少子高齢化が進み、社会が上手く回らないのかなと思う。
140	子供に必要な保険や学校の選択についてよくわからない
141	もっと子供が育てやすくなるように政府がもっと補助してほしい
142	子供が増えると大変になる社会はおかしいと思うので、子育て世代の手当を多くしてほしい
143	自分が稼いだ金を妻が管理し、のうのうと今月の小遣いなどと渡せる神経が恐ろしい。
144	純粋に自分が結婚できるとは到底思えない。皆そう言いつつ結婚してるから多分出来るのだろうと思うが、やはり、自分に結婚できるとは到底思えない。結婚するといいいことが、とか子育ての援助が、とか2040年くらいに日本の合計特殊出生率は0を超えてマイナスに、とか色々なことを言われながら育ててきたけれども、やはり自分が結婚できない可能性の方が高いのでこれらの問題の根本的解決に寄与できない。と考えている。
145	子供がいても仕事と育児を両立できるようにもっとサポートを手厚くしてほしい
146	国が子育て支援をもっと強化してほしい
147	結婚できるような世の中じゃない。
148	そんなに結婚させたいのなら結婚してもメリットがある政策をつくった方がいい
149	結婚や子育てを高校生にアンケートを取る前に結婚や子育てを望み、実現できるような金銭的、精神的に余裕を持てるような制度（給付金や補助、減税、裏金や省庁の中抜き等の税金の無駄遣い）を整え
150	子育ての給付金が足りてないと思う。余裕が無いから、子供を産まない人が多い。子供が嗜好品になりかけている。
151	子育てしている家庭に対する支援を増やさないのか(より影響の大きい支援をつくらないのか)
152	給付金を増やす
153	父親が子育てをすることが普通になればいいのに
154	子供育てるお金があるなら、自分の趣味にまわしたほうが人生が楽しくなりそう。
155	今
156	結婚や出産に保証や手当をつける

子育て世帯に選ばれるまち神戸を目指して

若者及び子育て世代の雇用 に関する市内企業・事業者 調査報告書

グループ B

幹事：木戸 さだかず

大井 としひろ

岩 佐 けんや

大 野 陽 平

大かわら 鈴子

Mission

若者及び子育て世代が神戸で働きたいと思えるために、企業の取り組み、雇用状況、雇用への課題を明らかにする

Survey Method

アンケート

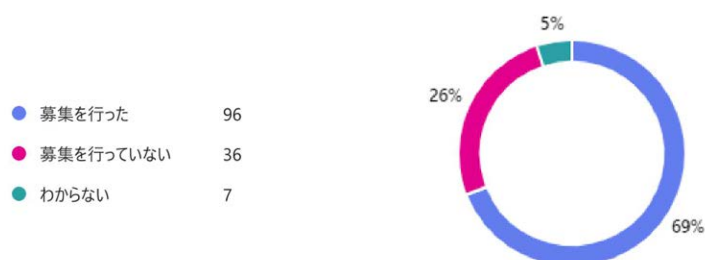
神戸商工会議所会員あてメールマガジンに掲載 約 2,500 社

ミモザ企業を含む市内企業・事業者へ郵送 600 通

回答数 139 社

1. 求人

5. 若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）の求人について、過去3年間に従業員採用の募集を行いましたか。



6. 募集人数に対して十分な応募がありましたか。



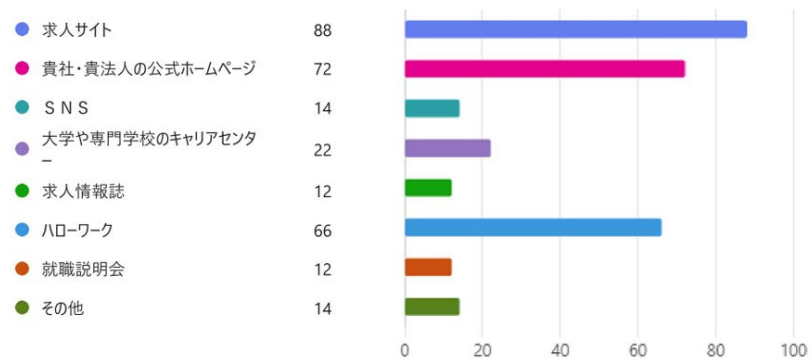
従業員数	十分な応募があった	十分な応募がなかった		
		合計	やや少なかった	少なかった
-49	13	40	8	32
50-99	4	8	5	3
100-299	5	7	4	3
300-	4	9	8	1

・ 募集に対して十分な応募がない状況

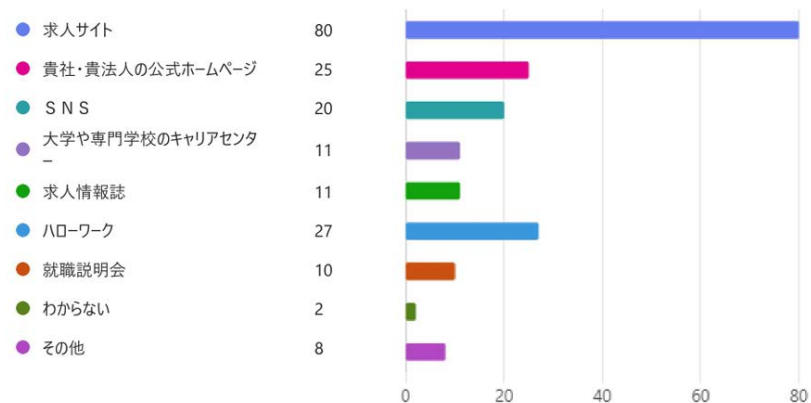
・ 小規模な企業・事業所で十分な応募がない傾向

2. 情報取得

3. 若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）の求人についてお伺いします。求人情報を発信する際に使用している広報媒体で、よく使用するものを選択してください。



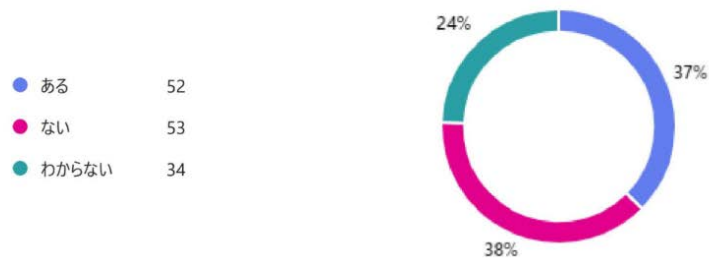
7. 応募者は、どのような方法で求人情報を取得していることが多いと感じますか。よく利用されていると思われるものを選択してください。



- ・ 応募者の情報取得は求人サイトが圧倒的に多い
- ・ 求人情報誌、就職説明会は少なく、ネットによる取得が多い

3. 募集の際の課題

9. 若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）の従業員を募集するに当たり、課題となっていることはありますか。



10. 若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）の従業員を募集するに当たり、課題となっていることはどのようなことでしょうか。

49
応答

最新の回答
"若い世代の就職に対する選択の基準がわからない"
...

6回答者 (12%) この質問に 応募回答しました。

企業型DC 母集団形成 子供 シフト相手 社内 女性
急な休み 労働条件 働き方 応募 内定 課題 労働時間
健康保険 年間休日 社会保険 初任給 託児所

- ・ 課題を感じている企業・事業者は 37%と少ない
- ・ 子供の体調による急な休みや勤務時間が限られていることなどの処遇や賃金面が課題と感じられている。また、意識の世代間ギャップを課題と感じているとの回答もあった

4. 行政支援の必要性

12. 若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、行政による支援の必要性を感じますか。



13. 若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、神戸市に対し、具体的に望むことがあれば教えてください。

25
応答

最新の回答

"小学校、中学、高校の授業の中に職業体験を入れるなど"

...

7回答者 (28%) この質問に 補助回答しました。



- ・行政支援が必要と感じる 58 % に対して、感じないは 13 % であり、行政による支援を求めている企業が多くある
- ・具体的な支援は賃金への助成など金銭支援を求める声が多い一方、企業と若者との出会いの場、PR できるサイト作りなど、まずは知ってもらう、きっかけづくりを求める声もあった

5. 選ばれるための企業・事業所の取組み

14. 貴社・貴法人が若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）に選ばれるために取り組んでいることがあれば教えてください。

91
応答

最新の回答

"有給休暇を取りやすくしている"

10回答者 (11%) この質問に 環境回答しました。



・時短勤務、在宅勤務、フレックス制、男性育休、アニバーサリー休暇などの導入、福利厚生充実、くるみんマーク取得に取り組んだり制度の充実に加えて、やめない風土づくり、教育、対話といった従業員とコミュニケーションをとる取り組みをしているとの回答もあった

Summary

若者及び子育て世代の採用については売り手市場の状況にある中、課題と感じている企業（３７％）はそれほど多くない結果であったが、若者及び子育て世代の多様な働き方（子供の体調変化による急な休みや限られた勤務時間など）への対応を課題と感じている企業が一定あった。また、この問題については、雇用環境や処遇の整備・改善に向けた行政支援が必要と感じている企業が半数以上（５８％）あった。

未来都市創造に関する特別委員会としての視点

働き手の求める労働環境、ワーク・ライフ・バランスの大きな変化に対して、企業側が十分に対応できているかというと、そうではない現状が明らかとなったのではないだろうか。現在、神戸市では、市内中小・中堅企業に勤務し、かつ市内に居住する若年従業員を対象に住宅手当の上乗せ支援を行っているが、一部の企業の活用にとどまっている。この結果は、アンケート調査において企業が求める行政支援の内容が多岐にわたったことから、ひとつの施策でカバーするのではなく多様なメニューできめ細かく支援する必要があることを示唆しているのではないだろうか。今後は、支援メニューを増やすなど、更にきめ細やかな支援を行っていく必要があると考える。売り手市場の中、若者及び子育て世代に選ばれるために、委員会として企業がニーズ変化に対応できるように支援の継続、見直し、拡充を市に求めていく必要がある。

若者及び子育て世代の雇用に関する調査

子育て世帯やその将来世代の居住地として、神戸市が選ばれるための政策課題を調査するため、広く皆様の貴重なご意見、ご要望をお聞きかせください。質問数は最大で 17 問です。複数の事業所がある場合は、主に神戸市内の事業所についてお答えください。

1. 貴社・貴法人についてお伺いします。主たる業種についてお答えください。

- ☐製造業 ☐卸売・小売業 ☐医療・福祉 ☐宿泊・飲食サービス業 ☐運輸・倉庫業
☐建設業 ☐情報通信業 ☐金融・保険業 ☐その他（ ）

2. 従業員数（常用雇用者・令和 6 年 12 月 1 日時点）についてお答えください。

- ☐10 人未満 ☐10～49 人 ☐50～99 人 ☐100～299 人以上 ☐300 人以上

3. 若者及び子育て世代（18 歳までの子を育てている人）の求人についてお伺いします。求人情報を発信する際に使用している広報媒体で、よく使用するものを選択してください。

最大 3 個のオプションを選択してください。

- ☐求人サイト ☐貴社・貴法人の公式ホームページ ☐SNS
☐大学や専門学校のキャリアセンター ☐求人情報誌 ☐ハローワーク
☐就職説明会 ☐その他（ ）

4. 上記の質問で、求人情報を発信する際によく使用する広報媒体として、SNS を選択された場合にお答えください。SNS は主にどのようなものを利用していますか。

5. 若者及び子育て世代（18 歳までの子を育てている人）の求人について、過去 3 年間に従業員採用の募集を行いましたか。 * 必須（回答で次の質問が決まる）

- ☐募集を行った
☐募集を行っていない →9 へ
☐わからない →9 へ

6. 募集人数に対して十分な応募がありましたか。

- ☐十分な応募があった ☐やや少なかった ☐少なかった ☐わからない

7. 応募者は、どのような方法で求人情報を取得していることが多いと感じますか。よく利用されていると思われるものを選択してください。

最大 3 個のオプションを選択してください。

- ☐求人サイト ☐貴社・貴法人の公式ホームページ ☐SNS
☐大学や専門学校のキャリアセンター ☐求人情報誌 ☐ハローワーク
☐就職説明会 ☐わからない ☐その他（ ）

8. 上記の質問で、求人情報を取得するためによく使用されているものとして、SNS を選択された場合にお答えください。SNS は主にどのようなものを想定していますか。

9. 若者及び子育て世代（18 歳までの子を育てている人）の従業員を募集するに当たり、課題となっていることはありますか。 * 必須（回答で次の質問が決まる）

- ☐ある
☐ない →14 へ
☐わからない →14 へ

10. 若者及び子育て世代（18 歳までの子を育てている人）の従業員を募集するに当たり、課題となっていることはどのようなことでしょうか。

11. 上記でご回答いただいた若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、原因となっていることはどのようなことだとお考えですか。

12. 若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、行政による支援の必要性を感じますか。

*** 必須（回答で次の質問が決まる）**

☐ 感じる

☐ 感じない →14 へ

☐ わからない →14 へ

13. 若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、神戸市に対し、具体的に望むことがあれば教えてください。

14. 貴社・貴法人が若者及び子育て世代（18 歳までの子を育てている人）に選ばれるために取り組んでいることがあれば教えてください。

15. ご協力ありがとうございました。貴社・貴法人名をご記入ください。 *** 必須**

16. 貴部署名、御連絡先をご記入ください。 *** 必須**

17. よろしければご担当者名をご記入ください

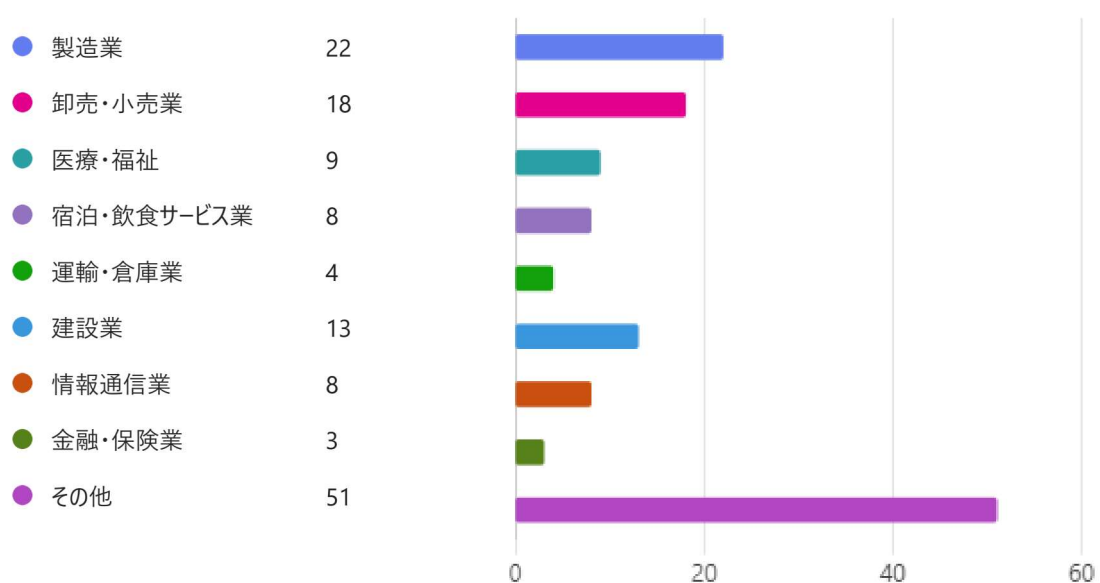
応答の概要 終了済み

応答

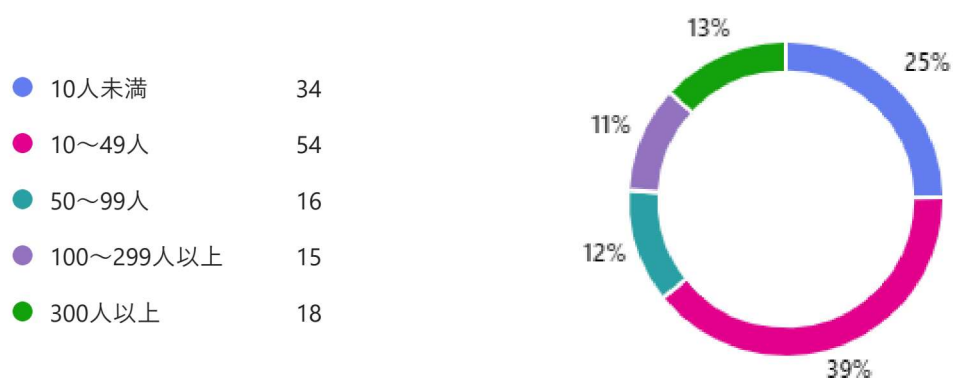
139



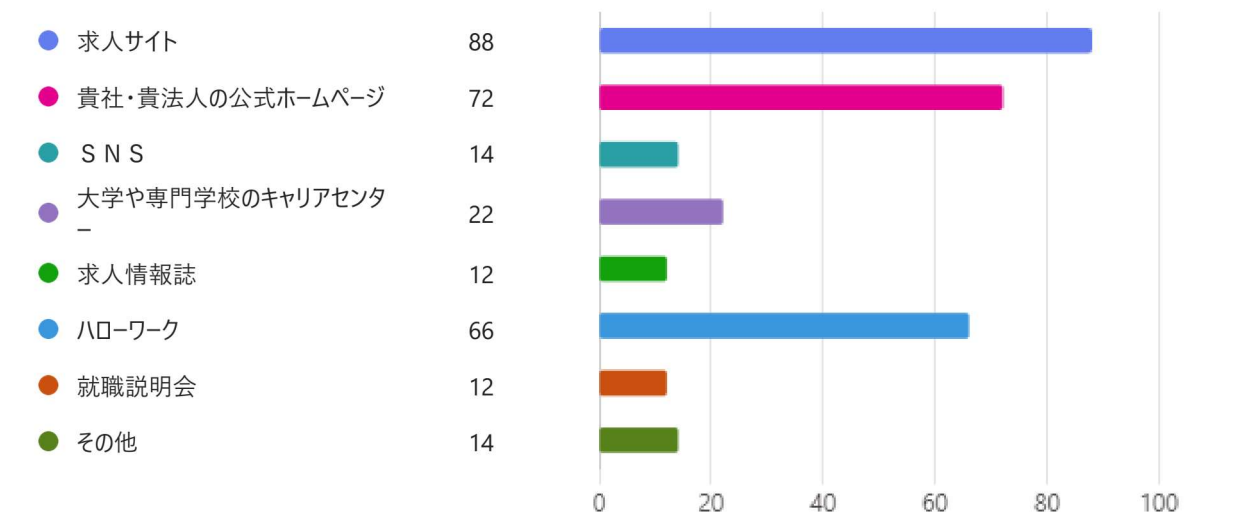
1. 貴社・貴法人についてお伺いします。主たる業種についてお答えください。



2. 従業員数（常用雇用者・令和6年12月1日時点）についてお答えください。



3. 若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）の求人についてお伺いします。求人情報を発信する際に使用している広報媒体で、よく使用するものを選択してください。



4. 上記の質問で、求人情報を発信する際によく使用する広報媒体として、S N Sを選択された場合にお答えください。S N Sは主にどのようなものを利用していますか。

25

応答

最新の回答

"Instagram"

...

8回答者 (32%) この質問に Instagram回答しました。

ホームページ

Instagram

インスタ

インディード

エックス

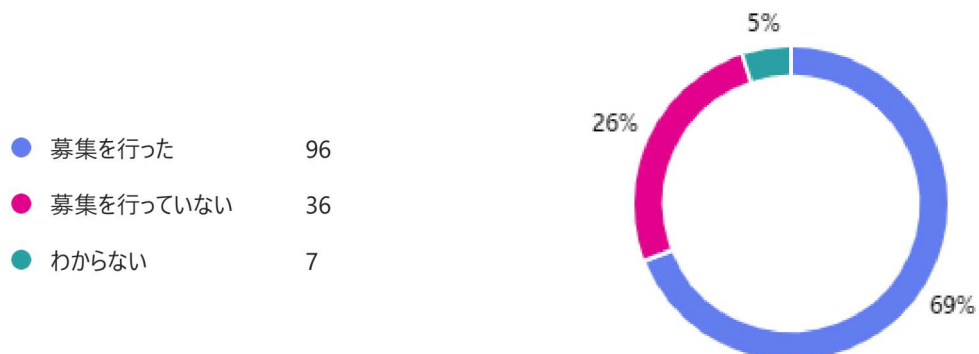
Facebook

タウンワーク

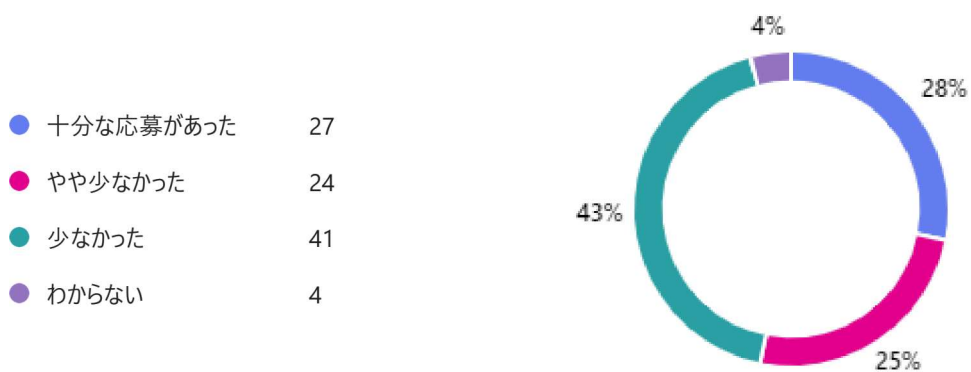
LINE

ノート

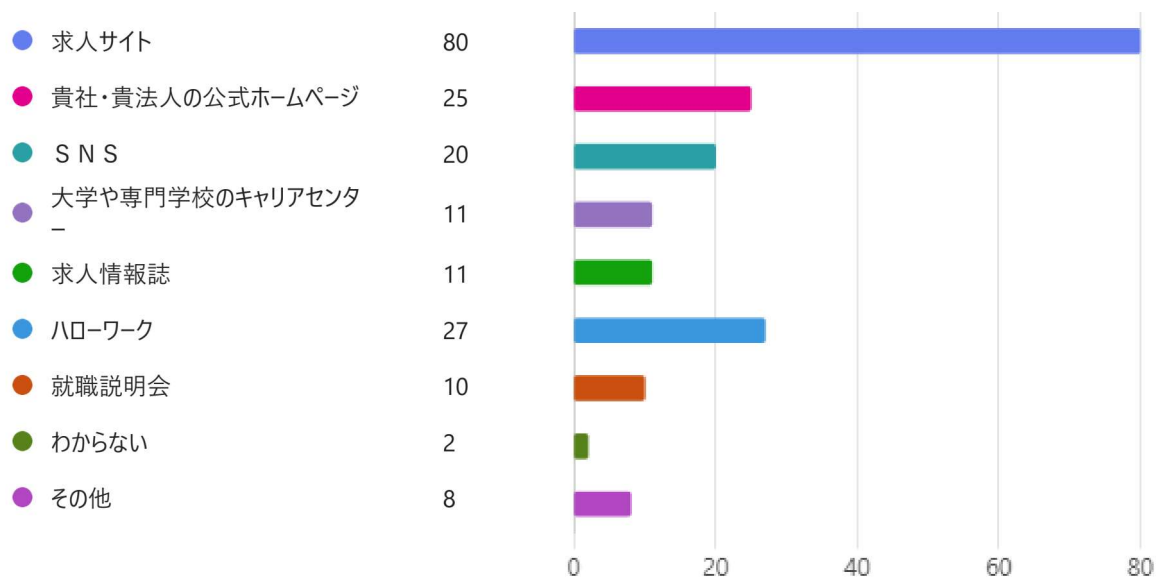
5. 若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）の求人について、過去3年間に従業員採用の募集を行いましたか。



6. 募集人数に対して十分な応募がありましたか。



7. 応募者は、どのような方法で求人情報を取得していることが多いと感じますか。よく利用されていると思われるものを選択してください。



8. 上記の質問で、求人情報を取得するためによく使用されているものとして、S N Sを選択された場合にお答えください。S N Sは主にどのようなものを想定していますか。

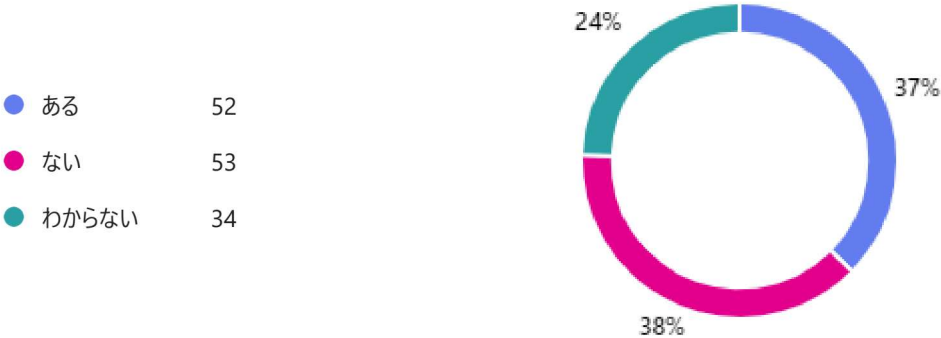
19
応答

最新の回答
"Instagram"
...

6回答者 (32%) この質問に インスタ回答しました。



9. 若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）の従業員を募集するに当たり、課題となっていることはありますか。



10. 若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）の従業員を募集するに当たり、課題となっていることはどのようなことでしょうか。

49
応答

最新の回答
"若い世代の就職に対する選択の基準がわからない"
...

6回答者 (12%) この質問に 応募回答しました。



11. 上記でご回答いただいた若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、原因となっていることはどのようなことだとお考えですか。

43
応答

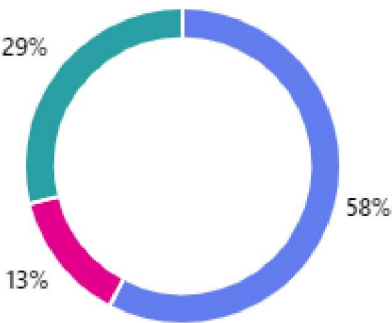
最新の回答
"学校教育の中で、就職に対する授業が無い"
...

3回答者 (7%) この質問に 企業回答しました。



12. 若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、行政による支援の必要性を感じますか。

● 感じる	30
● 感じない	7
● わからない	15



13. 若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、神戸市に対し、具体的に望むことがあれば教えてください。

25
応答

最新の回答

"小学校、中学、高校の授業の中に職業体験を入れるなど"
...

7回答者 (28%) この質問に 補助回答しました。



14. 貴社・貴法人が若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）に選ばれるために取り組んでいることがあれば教えてください。

91
応答

最新の回答

"有給休暇を取りやすくしている"
...

10回答者 (11%) この質問に 環境回答しました。



若者及び子育て世代の雇用に関する調査（集計）

1. 調査期間 令和7年1月10日（金）～1月24日（金）
2. 回答者 市内の企業、事業者等 139 社
3. アンケート結果

(1) 貴社・貴法人についてお伺いします。主たる業種についてお答えください。

	件数	割合
製造業	22	16.2%
卸売・小売業	18	13.2%
医療・福祉	9	6.6%
宿泊・飲食サービス業	8	5.9%
運輸・倉庫業	4	2.9%
建設業	13	9.6%
情報通信業	8	5.9%
金融・保険業	3	2.2%
その他 ※	51	37.5%
合計	136	100.0%

	件数
回答	136
無回答	3
計	139

※その他【詳細は別紙B3-1】
教育(3)、サービス業(3)、
人材サービス業(2)、不動産業(2)、
技術サービス業(2) 等

(2) 従業員数（常用雇用者・令和6年12月1日時点）についてお答えください。

	件数	割合
10人未満	34	24.8%
10～49人	54	39.4%
50～99人	16	11.7%
100～299人以上	15	10.9%
300人以上	18	13.1%
合計	137	100.0%

	件数
回答	137
無回答	2
計	139

(3) 若者及び子育て世代(18歳までの子を育てている人)の求人についてお伺いします。
求人情報を発信する際に使用している広報媒体で、よく使用するものを選択してください。
(複数回答、最大3つまで)

	件数	割合 (139社中)
求人サイト	88	63.3%
貴社・貴法人の公式ホームページ	72	51.8%
S N S	14	10.1%
大学や専門学校のキャリアセンター	22	15.8%
求人情報誌	12	8.6%
ハローワーク	66	47.5%
就職説明会	12	8.6%
その他 ※	14	10.1%
合計	300	—

※回答 139社

※その他

- ・人材紹介(7)
- ・転職エージェント
- ・web広告
(googleやindeedへのリンク)
- ・知人の紹介
- ・人づて
- ・張り紙
- ・使用していない
- ・求人を出していない

139社

- (4) 上記の質問で、求人情報を発信する際によく使用する広報媒体として、SNSを選択された場合にお答えください。SNSは主にどのようなものを利用していますか。
(複数回答)

	件数	割合 (24社中)
Facebook	3	12.5%
Instagram	13	54.2%
X	6	25.0%
ノート	1	4.2%
LINE	1	4.2%
インディード	3	12.5%
タウンワーク	1	4.2%
ホームページ	1	4.2%
合計	29	—

24社

※回答 24社

(「使用していない」と回答した1社を除く)

【内訳】

- ・設問(3)でSNSと回答有 12社
※設問(3)でSNSと回答した14社のうち
2社は無回答
- ・設問(3)でSNSと回答無 12社

- (5) 若者及び子育て世代(18歳までの子を育てている人)の求人について、過去3年間に従業員採用の募集を行いましたか。

	件数	割合
募集を行った	96	69.1%
募集を行っていない	36	25.9%
わからない	7	5.0%
合計	139	100.0%

※回答 139社

- (6) 募集人数に対して十分な応募がありましたか。

	件数	割合
十分な応募があった	27	28.1%
やや少なかった	24	25.0%
少なかった	41	42.7%
わからない	4	4.2%
合計	96	100.0%

※回答 募集を行った96社

- (7) 応募者は、どのような方法で求人情報を取得していることが多いと感じますか。
よく利用されていると思われるものを選択してください。
(複数回答、最大3つまで)

	件数	割合 (96社中)
求人サイト	80	83.3%
貴社・貴法人の公式ホームページ	25	26.0%
SNS	20	20.8%
大学や専門学校のキャリアセンター	11	11.5%
求人情報誌	11	11.5%
ハローワーク	27	28.1%
就職説明会	10	10.4%
その他 ※	8	8.3%
わからない	2	2.1%
合計	194	—

※回答 募集を行った96社

※その他

- ・人材紹介(3)
- ・転職エージェント
- ・web検索(google等)
- ・ニュース等の当社紹介記事
- ・実写やインターンシップ
- ・インターン

96社

- (8) 上記の質問で、求人情報を取得するためによく使用されているものとして、SNSを選択された場合にお答えください。SNSは主にどのようなものを想定していますか。
(複数回答)

	件数	割合 (17社中)
Facebook	1	5.9%
Instagram	11	64.7%
X	4	23.5%
ノート	1	5.9%
LINE	2	11.8%
インディード	2	11.8%
TikTok	1	5.9%
動画サイト	1	5.9%
合計	23	—

※回答 17社

(「使用していない」「求人サイト」と回答した2社を除く)

【内訳】

- ・設問(7)でSNSと回答有 14社
※設問(7)でSNSと回答した20社のうち
5社は無回答、1社は求人サイトと回答
- ・設問(7)でSNSと回答無 3社

17社

- (9) 若者及び子育て世代(18歳までの子を育てている人)の従業員を募集するに当たり、課題となっていることはありますか。

	件数	割合
ある	52	37.4%
ない	53	38.1%
わからない	34	24.5%
合計	139	100.0%

※回答 139社

- (10) 若者及び子育て世代(18歳までの子を育てている人)の従業員を募集するに当たり、課題となっていることはどのようなことでしょうか。

回答 48件 【詳細は別紙B3-2】

※「特になし」との回答1件を除く

(11) 上記でご回答いただいた若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、原因となっていることはどのようなことだとお考えですか。

回答 42件 【詳細は別紙B3-2】 ※「特になし」との回答1件を除く

(12) 若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、行政による支援の必要性を感じますか。

	件数	割合
感じる	30	57.7%
感じない	7	13.5%
わからない	15	28.8%
合計	52	100.0%

※回答
設問(9)で「課題がある」と回答した52社

(13) 若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、神戸市に対し、具体的に望むことがあれば教えてください。

回答 25件 【詳細は別紙B3-2】

(14) 貴社・貴法人が若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）に選ばれるために取り組んでいることがあれば教えてください。

回答 79件 【詳細は別紙B3-3】 ※「特になし」「無し」等の回答 12件を除く

【別紙B3-1】設問(1)

貴社・貴法人についてお伺いします。主たる業種についてお答えください。

その他回答

主たる業種	件数
教育	3
サービス業	3
人材サービス業	2
技術サービス業	2
不動産業	2
不動産管理	1
産業廃棄物処理運搬	1
産業廃棄物収集運搬業	1
金属スクラップ業	1
レンタカー業	1
機械設計業	1
経済団体	1
警備業	1
社会保険広報事業	1
社会保険労務士業	1
商業デザイン制作	1
レジャー関連	1
教育支援	1
その他の各種業種（専修学校等の調査啓発研修実施）	1
団体	1
農業	1
消防設備業	1
動物園	1
ソフト開発	1
生活関連サービス業	1
市街地開発に関する計画立案並びに設計業務	1
設計	1
コンサルティング業	1
デザイン制作、Webデザイン制作	1
Web制作	1
エネルギーコンサルティング	1
子育て支援サービス	1
音楽教育事業	1
フランチャイズ本部事業	1
通関業	1
商社、メンテナンス	1
商社	1
学術研究・専門・技術サービス	1
造園業	1
畜産肉牛肥育	1
害虫駆除	1
理容業	1
ビル環境サービス	1
ビルメンテナンス	1
その他 計	51

【別紙B 3－2】設問(10)(11)(13)

- (10) 若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）の従業員を募集するに当たり、課題となっていることはどのようなことでしょうか。
 (11) 上記でご回答いただいた若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、原因となっていることはどのようなことだと思えますか。
 (13) 若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、神戸市に対し、具体的に望むことがあれば教えてください。

	若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題	課題の原因	若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、神戸市に望むこと
1	相手の立場を考えて自分の思いを伝えること	対面でのコミュニケーション不足	多様な立場の人とふれあい、協働する場所作り
2	・初任給 ・働き方について	・相場に合った初任給の決定及びそれに伴う給与規程の改定等 ・リモートワークが不可能であること	
3	働きやすさ	週休2日だが休みがシフト制	働く従業員の手取りが増えるよう引かれる税金を少なくして欲しい。 手取りが増えないと働きたいという社員は増えない、もしくは辞めてしまうから。
4	社会保険や健康保険が高く、手取りが減ることが本人めとって会社にとっても厳しい	本人とその親が、働いて収入を得る意味を理解していないこと	募集時ではなく、教育で道徳や働く意味を教えることが必須だと思う
5	経験者を求めているので、縁故採用になっている。	新卒採用できるほど仕事に余裕がない。	
6	ワークライフバランスを主張してくる	子なし働く世代などからの不満、不公平感	
7	賃金を主とする労働条件		中小企業に対する賃金助成金の拡大
8	給与面と不規則なシフト		
9	零細団体なので給与等、処遇不十分。	構成員の会費が主たる収入であり、物価上昇に見合った給与改定を弾力的に実施することが困難	
10	内定を出してから入社するまでの間、入社意欲をグリップし続けることができないのが課題です。	若者世代が超売り手市場であり、当社よりも規模、待遇のいい企業から内定が出ると、すぐにそちらへ流れてしまうことが原因だと考えています。	子育て支援に関する補助金制度の導入
11	応募者が少ない。	賃金面と休暇日数。	就職説明会の開催をして頂きたい。
12		若者にはSNSでの発信が必要だと思うが、日々の仕事で時間を費やさない。	民間求人サイトは高額なので補助があれば、もっと求人を出したいです。
13	応募者が少ないのでなかなか採用までが難しいです	学校への求人では大企業優先など中小への案内も機会が少ないと思います	中小企業と若者の出会える企業の説明のできる場がほしいです
14	課題事項 ①勤務時間の制限 ②所得制限（扶養内） ③勤務場所（保育所の近所）	子育て中の場合、生活環境や生活リズムに制限が生じる	
15	社内の子育て支援制度や若年者支援制度は充実している方だと思うので、アピール方法に課題がある。	若年者への露出が少ないように思う。	神戸市内に在住の若年者、子育て世代が就職や転職を行う際に見ることが出来る市内企業のアピールサイト等があればありがたいです。また、SNSでの発信支援等があればいいなと思います。
16	応募者が少ない	弊社の勤務体制	
17	働く時間または時間帯、	育児の時間や学校行事の参加	幼児の時短保育、学童等の子どもを預ける場所
18	幼児、小学校のうちは女性の場合に、子供の体調により休みガチになる	ある程度は融通をきいてあげる	
19	子供が病気で突然休まれること		
20	応募が少ない	車でしか通勤できない	
21	質の低下	コロナ禍での制限やコミュニケーション方法の変化	
22	互いの労働時間の希望のずれ。	小規模店舗なので、急な休みの対応が取りにくい。	子育て世代の人材バンクとか…
23	働き方の価値観の違い	働き方改革	
24			市独自の助成制度
25	採用単価、母集団形成	人口減、情報の多さ	説明会や交流会などのイベントの開催を増やす
26	テレワークできる職種が限られている為両立できる人とできない人がでてくる オフィスビル内にテナント共有の託児所があれば良いと思う	不登校の子どもを受け入れる施設の不足	
27	初任給、給与、年間休日、立地	多くの求職者が一番に惹かれる条件なのではと思う	産休・育休後の復帰支援、病児保育、保育施設の入園申請の簡素化など
28	福利厚生、年間休日数、面接回数		中小企業に特化した合同企業説明会等の開催、頻度
29	雇用メリットが無い。	進学や子育て支援としてのサポートを会社がしていきたい気持ちがあるが、雇用保険やその他各方面の税金が大幅に上げられている中、会社としてサポート出来る体力がない。	在宅ワークの補助、進学サポート費用、その他税金面のサポート。
30	労働時間や急なお休みの対応。	余裕のある経営が出来ない。介護報酬などが安すぎるため、余裕ある人数が雇えない。希望者少ない。	子育て世代の雇用へのバックアップ。雇用者への保障。
31	時間有給や託児所がない。 企業型DCや子供手当や住宅手当もない。	弊社の知ってもらう段階に持っていくことが出来ていない。	
32	急な休み（子供の発熱など）	親世代が離れて暮らしている、または孫育てに協力的では無い	例えば、子育て中の従業員がいる際に、サポート人員としてのアルバイトやパートを雇い入れた際の賃金補助など
33	就労時間	家事と育児	託児施設の多様性

【別紙B 3－2】設問(10)(11)(13)

- (10) 若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）の従業員を募集するに当たり、課題となっていることはどのようなことでしょうか。
 (11) 上記でご回答いただいた若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、原因となっていることはどのようなことだとお考えですか。
 (13) 若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、神戸市に対し、具体的に望むことがあれば教えてください。

	若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題	課題の原因	若者及び子育て世代の従業員を募集する際の課題について、神戸市に望むこと
34	母集団形成	採用難易度が高くなっている	
35	募集要件にあった経験、スキルを持った人が集まらない。	求職者にうまく訴求できていないため。	
36	若者への社内の教育体制	従業員の業務量が多い	
37	・求める人材が少ない。 ・承諾後の内定辞退。	・求人内容、情報量 ・内定後のフォローの方法	
38	急な休みが多いこと	子供の預け先など	
39	新卒採用における母集団形成、内定辞退の多さ。	売り手市場、学生が複数企業から内定をもらえるという状況。	
40	・認知度が低く、応募へつながる母集団が大きくない。 ・応募があっても内定承諾まで繋がらない。	・認知度。アップさせるために就職サイトやイベントを利用するにも膨大な費用がかかる。 ・採用条件(立地や年収)が他社と比較すると見劣りする場合がある。また、訴求がうまく出来ていないことも一因と感じる。	すでに実施いただいておりますが、「高校生のためのキャリアガイダンス」の様な企画を様々なターゲットに合わせ、実施いただけると嬉しいです。
41	子供のケガや病気で、時間通りに出勤できない事がある		
42	労働条件、特に休日給与	建設業に対する理解不足による入職者の絶対数不足。	例えば、弊社では地方にも求人をしており、現在神戸市の若者家賃補助は大変ありがたい。
43	自律的にキャリア選択ができる制度が整っていないことや、ライフスタイルに応じた働き方の選択肢が限られていること	・業務内容によって求められる能力、スキルが大きく異なるため ・人手が足りていない事業所もあるため	
44	・初任給の改善 ・女性の職域拡大（就業環境の整備）		
45	職種によっては募集人数が集まらなかったり、内定出しを行っても、競合他社に競り負けて内定を辞退をされること。	処遇面、将来的な転勤に対する不安	
46	望む人材像の応募者が少ない	採用に多くの経費がかけられない	採用、教育にかかる費用の支援
47	勤務時間帯の課題 勤務時間ではなく、就業先のテナントデベロッパーさまが定める営業時間に合わせた勤務時間帯となるため、どうしても閉店時間帯でのご勤務が難しい。これはシフト制ではどうしても出てくる課題となっており、スタッフそれぞれバランス良く勤務時間帯を設定したいが偏りが出てしまう。結果、不満が出てしまう。	サービス業では、雇用する側よりも、就業先となる施設の営業時間帯。施設側の考え次第。施設が営業時間に合わせた保育施設を設ける。	お子さまを預かる施設の時間帯の拡充。 お子さまの体調不良時での保育可能な施設、安心して預かることができる補助。 安心できる神戸市が運営するベビーシッター、ベビーシッター活用者への一部助成。
48	短時間勤務に対する仕事の割り振り	保育所の場所や預け入れ可能な時間	働く若いお母さんに対する補助金や保育所の充実
49	若い世代の就職に対する選択の基準がわからない	学校教育の中で、就職に対する授業が無い	小学校、中学、高校の授業の中に職業体験を入れるなど

【別紙B3-3】設問(14)

貴社・貴法人が若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）に選ばれるためにあれば教えてください。

	若者及び子育て世代に選ばれるための取り組み
1	多様な働き方ができる個別の労働契約の締結と職場全体での助け合い(正副担当制、複数担当制、シフト勤務制、時差出勤制)
2	傷病者や介護・育児のテレワークでの勤務が可能である
3	子育て世代が休みやすいよう、職場環境を整える
4	子育て世代という言葉は使用していないが、ランチ時間帯の求人募集を実施しているので、結果的に子育て世代の雇用となっている。
5	・初任給の改定（R6.11実績） ・事務作業のDX化 ・休暇規程等の充実化
6	バックオフィスの求人に関しては、リモートワークの環境を整えました。
7	①出産・育休休暇がある ②社員や社員の家族には誕生日の際にお祝いを渡している
8	2024年くるみん認定取得
9	特に取り組んでいることはない 全世代の社員が働きやすいように考えている 休みは多く、年休も申請のみ フルフレックス勤務など
10	在宅勤務を増やす
11	辞めない風土環境作り、教育の充実
12	給与改定を検討中
13	勤務時間、場所の裁量の広さ
14	兵庫県奨学金返済支援制度と神戸市内企業住宅支援補助金制度の活用
15	休暇や時短勤務の延長、時差勤務の実施
16	福利厚生 の充実
17	フレックスタイム制度の導入、在宅勤務制度、残業の削減、有給休暇の取得率目標設定、など
18	民間求人サイトに募集を出す時は、若者の写真が前に出るようにしています
19	会社案内の更新速度や今の状況の発信。SNSをもっと活用しなくてはと考えてます
20	給与のベースアップや業務の効率化
21	①家族手当支給 ②育児休暇取得制度の実施
22	奨学金返済支援制度、アンバーサリー休暇（家族や自分の記念日等に1日使える休暇）、男性育休推進
23	給与面の改定 その他という項目がないので、ここに入力しますが、新卒と中途では若者の採用のやり方が全く違います。この調査の意味ないと思います。中途でも若者と子育て世代では採用でも採用する際の条件も全く違います。このアンケートの主旨がよくわかりません。
24	時短勤務可
25	有給での子の看護休暇の取得や時間有休、在宅勤務が出来る体制にしている。
26	時間の融通(フレックス勤務)。時短勤務。
27	対話
28	ご近所の方にしほり、ある程度の融通をしてあげること
29	シフト時間の融通かきくこと等
30	ワークライフバランス
31	できるだけ休まれても良い部署にしか配属しない
32	子供の病気などの急な休みにも寛容な社風
33	仕事内容を正確に分かりやすく伝えること。特にやりがいを持ってもらえるかが重要だと考えます。
34	若者及び子育て世代に限定しておりませんので特段の取り組みは行っていません。
35	ブランド力の向上
36	くるみんマーク等の取得を模索中。
37	良好な人間関係
38	フレックス及びリモート
39	男性の育休取得 労働時間の多様性

【別紙B3-3】設問(14)

貴社・貴法人が若者及び子育て世代（18歳までの子を育てている人）に選ばれるためにあれば教えてください。

	若者及び子育て世代に選ばれるための取り組み
40	勤務場所までの送迎
41	現在、小さな子どもがいる社員が実際に働いていること・時短勤務が可能なことをお伝えしています。
42	福利厚生の拡充など働きやすい環境作り、snsの活用
43	従業員の希望を尊重する社風を心がけています
44	産休・育休制度の取得のしやすさ。妊婦への業務の負担軽減、制度等の情報提供など
45	福利厚生を充実させること・産育休制度の取得のしやすさ
46	売上向上、利益率向上
47	説明会や座談会を実施し質疑応答の時間を設け不安解消を努めています。
48	短時間労働正職の採用など
49	時間有給や短時間正社員の取り入れの検討。
50	今の体制では子育て世代の採用は難しい
51	ノー残業デーの設定、有給休暇を取りやすい環境整備
52	特にありません。 若者や子育て世代を限定して募集を行うといった他の応募者と区別することはなく、全応募者の中から総合的に判断して選考を行っている。
53	・健康経営　・社内制度の見直し
54	求人面に限らない、サービス・事業内容自体の広報・発信
55	就労希望者それぞれの就労希望と弊社の希望のすり合わせに努める
56	子どもの病欠や学校行事などは休みやすい環境を作っている。
57	働きやすい環境づくり
58	家賃補助 時短勤務の対象子の年齢の増
59	今のところ、選ばれる必要性を感じていない
60	雇用環境、職場環境の整備
61	休暇を取得し易い環境作り
62	奨学金返還支援手当 家族手当が扶養の有無に関係なく支給
63	ミモザ企業の認定を取得済です。残業時間を減らすよう取り組み、前事業年度の月平均所定外労働時間は6.9時となっております。
64	シフト自由、時間調整自由
65	即採用
66	長く働くことができる環境作り、若手でも挑戦できる環境作り等
67	・残業0への取り組み。 ・慶弔見舞金 ・短時間正社員制度(子どもが3歳になった後も7時間での勤務が可能)
68	育児の特別休暇を創設した
69	労働条件の改善、昇給、賞与、決済賞与支給などと共に福利厚生の充実
70	育児介護休業規程において、子の看護休暇や所定外労働の免除等に関して、法定を上回る措置を講じている。
71	・家賃支援制度の導入 ・育児介護休業規程など分かりやすい周知方法への改善
72	世代を特定しての採用活動は行っていないが、今年度、若者世代の職員を2名採用した。 特に若者世代に選ばれるための特別な取り組みは行っていない。
73	事業内容や仕事へのやりがい、会社の雰囲気や福利厚生をはじめとする従業員に対する取り組みのPR
74	福利厚生面の取り組み
75	在宅勤務、時差勤務制度
76	子育て世代に向けて、産休・育休制度を整え、職復帰後の時短勤務制度があることをお伝えしています
77	お子さまに向けたクリスマスプレゼント。
78	短時間勤務に対するフレキシブルな対応
79	有給休暇を取りやすくしている

神戸市が子育て世帯に選ばれ、住み続けたいまちとなるため、有効な政策を検討するに当たり、グループCは「現在子どもを育てている世帯」に直接聞き取り及びアンケート調査を行った。

調査① 未就学児を育てている世帯への聞き取り

令和7年1月21日、須磨区北須磨支所内にある「おやこふらっとひろば名谷」の利用者（利用対象：未就学児とその保護者）に対して、別紙C1「神戸市の子育て支援策に関する調査票」を用いて、委員が現地で直接ヒアリングを行った。

21名の保護者から回答があり、「子どもの遊び場が多い」「医療費助成で病院に行きやすい」など一定の評価が寄せられる一方、「保育園に入れなかった」「兄弟一緒に保育園に入れない」「保育園や一時預かりが近くにない」「他都市のように医療費を無償にしてほしい」などご意見もいただいた。

また、施策の充実を求めるものとして、「一人っ子へも支援してほしい」「所得制限を無くしてほしい」などの制度の拡充のほか、「子育てと育児の両立」できるよう仕事復帰の支援を求める声があった。

調査② 就学後の子どもを育てている世帯への聞き取り

令和7年1月21日、地下鉄名谷駅ビル内にある「神戸名谷ワークラボSUMAile（スマイル）」の就業者（就学中の子を育てる親4名）に、「調査票（別紙C1）」に回答をいただくとともに、現地にて委員が意見交換を行った。

「市内施設等が無料で使えるのびのびパスポートが良い」「出産から就学前までは支援が豊富にあるイメージ」との意見の一方、「中学校から高校までの間は体感的に支援があったような印象はない」「大学生にも所得に関係なく、何か支援があれば、神戸市に住み続けようとなるのではないか」などの意見が出された。

所見

調査を通じて、未就学児の保護者より、中高生の子育て中の保護者の方が、具体的に求める施策が多く出され、経済的な支援の充実を求める声が強かった。

神戸市の子育て支援策への採点は決して高いとは言えず、100点との回答もないことから施策の充実への継続した努力が求められている。

また、他都市の子育て支援制度と比較する意見が多く出されたが「神戸市独自にどんな施策を行っているかほとんど知らなかった」「発信力がなく、子育て世代に届いていない」「あっても使いづらい」などの意見が出されるなど、保護者の満足度を高める上で

も、施策の広報の在り方や、制度設計がニーズに合っているかなどの課題も見えた。

意見交換では、「公立学校の先生の給料を上げてほしい。圧倒的に人が足りていない」など、子や保護者への直接的な支援だけでなく、子育て環境全体を考えての要望もいただいた。

ご意見を伺った保護者からは「直接話ができるうれしい。（今回のような意見交換を）いろんなところで年代を変えて実施してほしい」との意見もいただいております、引き続き委員会として意見交換会を実施することは「市民の積極的な参加」「市民の多様な意見を把握」を掲げる神戸市議会基本条例の実践という点でも有意であると考えています。

添付資料

別紙C1「神戸市の子育て支援策に関する調査（調査票）」

別紙C2「おやこふらっとひろば調査結果」

別紙C3「神戸名谷ワークラボSUMAileでの意見交換会（議事要旨）」

別紙C4「おやこふらっとひろば名谷・神戸名谷ワークラボ SUMAile 概要」

神戸市の子育て支援策に関する調査

神戸市会（議会）の未来都市創造に関する特別委員会では、「子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちづくり」を調査テーマに、議員による調査活動を行っています。現在、神戸に住み、子育てされている皆様が、神戸市の子育て支援策に対して思うこと、感じておられることなどをお聞かせください。

1. お住まいの地域（区・神戸市以外は市町村）をお聞かせください。

1. 東灘区 2. 灘区 3. 中央区 4. 兵庫区 5. 北区 6. 長田区
7. 須磨区 8. 垂水区 9. 西区 10. その他（ ）

2. あなたの年齢をお聞かせください。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. その他（ ）

3. お子さんの人数をお聞かせください。

1. 未就学児（ 人） 2. 小学生（ 人） 3. 中学生（ 人）
4. 高校生（ 人） 5. その他（ ）

4. 神戸市の子育て支援策について、採点するなら何点ですか。

点／100点

5. 神戸市の子育て支援について、良いと思うこと、そのうち、さらに充実させてほしいと思うことがあれば、お聞かせください。別紙「神戸市 ライフステージに応じた切れ目のない支援」の中から、お選びいただいても構いません。

--

6. 神戸市の子育て支援について、足りないと思うこと、不満があって改善が必要だと思うことがあれば、お聞かせください。

--

7. 神戸市が子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちとなるために、どのような取組が必要だと思いますか。お考えがあれば、お聞かせください。

--

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

いただいたご意見は、今後の委員会活動に生かし、神戸市への政策提言等につなげてまいります。

神戸市 ライフステージに応じた切れ目のない支援

	妊娠・出産	新生児	就学前	小・中・高	
経済的支援	出産一時金	健康診査費用助成	児童手当・こども医療費助成		
	・ 寄り添い給付金 ・ こべっこウェルカム定期便		多子世帯の 保育料等減免	小中学校 給食費助成	高校生等 通学定期券補助
	産後ケア		・ 病児保育 ・ 医療的ケア児受け入れ		中高生のための 駅前フリースペース
子育て支援サービス	産前・産後ホームヘルプサービス		保育所・こども 誰でも通園制度	学童保育	・ ユースプラザ ・ ユースステーション
	こうべ子育て応援LINE		こべっこ 発達専門チーム	こどもの居場所 づくり	
	こども家庭センター・各療育センター・各区こども家庭支援室・児童家庭支援センター				
	児童館・地域子育て支援拠点・子育て世帯への食を通じたつながり支援				
	無料コワーキングスペース				
	こどもっとKOBE・こどもっとKOBEくらぶ等での情報発信				
	子育て・教育環境整備	子育て世帯減額制度（駐輪場）			市内美術館・博物館の無料化
親子おでかけサポート制度（駐輪場）			学びへつなぐ 地域型学習支援	神戸高専の 授業料補助	
住み替え補助			英語教育の推進（ALT配置）		

おやこふらっとひろば名谷（利用者等へのヒアリング）

	お住まいの地域		年齢		お子さんの人数 (未就学児)	お子さんの人数 (小学生)	お子さんの人数 (中学生)	お子さんの人数 (高校生)	お子さんの人数（その他）	神戸市の子育て支援策について、採点する点何点ですか。	神戸市の子育て支援について、良いと思うこと、より充実させてほしいと思うこと	神戸市の子育て支援について、足りないと思うこと、改善が必要だと思うこと	神戸市が子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちとなるために、どのような取組が必要だと思いますか。
		その他の場合		その他の場合									
1	須磨区		30代		2人					80点／100点	寄り添い給付金・遊び場が多い事は、評価している。		バスに乗る際など公共交通でのベビーカーをもっと乗りやすくしてほしい。
2	西区		30代		1人	1人				70点／100点	子どもの一時預かり所が駅前にほしい。	情報発信力・子育て世代（就学前）の横の繋がりが弱い	子育て・教育に対しての支援・補助金の拡充。明石が良いイメージがある。
3	須磨区		30代		2人					75点／100点	こべっこウエルカム定期便について、使用しているオムツ（ムーニー）がなく、オムツの種類を増やしてほしい。	発信力がなく、子育ての情報が届いていない。	学費補助の拡充。
4	西区		30代		2人					85点／100点	こべっこウエルカム定期便について、オムツが届くのに時間がかかり、成長スピードに合っていない状況である。近所の薬局等で使える利用券のほうありがたい。ミルク（数種類あり）をメニューに入れてほしい。	学園都市に住んでいるが、保育園や一時預かりが近くにない。駅近にさらに設置してほしい。	補助金に対して、所得制限を撤廃してほしい。
5	西区		30代		1人	1人				80点／100点	神戸市独自で何をやっているのか分からない。	神戸市の子育て支援が他都市に比べ何が良いのか差別化が伝わらない。	神戸市に住み続けたいと思うが、教育費に対して不安がある。高校の無償化など教育費の補助を増加してほしい。
6	須磨区		30代			3人				70点／100点	遊びスペースが増えた	中学の標準服が品切れ無償化になってもこまごましたものに費用が掛かる 体操服の襟をなくす	年末の医療体制の拡充 3人の子ども手当を長男が成人してももらえるようにしてほしい
7	須磨区		40代			1人				80点／100点	図書館がきれいになった	学童が夏休みだけ利用ができない	
8	須磨区		30代		3人	1人				50点／100点		明石市のように医療費、保育費、給食費を無償にして欲しい	
9	須磨区		30代		2人	1人				60点／100点	遊び場が多い 公園が多い	子ども連れで行けるところが少ない	おむつなどの必需品の支援
10	須磨区		30代		1人					60点／100点	良くもなく悪くもなく	サポートが欲しい	保育料の無償化
11	須磨区		30代		1人					70点／100点	遊び場が増えた	教育費の支援がない 保育園に入らなかった	高校生や大学生になってからの教育費の支援

	お住まいの地域		年齢		お子さんの人数 （未就学児）	お子さんの人数 （小学生）	お子さんの人数 （中学生）	お子さんの人数 （高校生）	お子さんの人数（その他）	神戸市の子育て支援策について、採点するなら何点ですか。	神戸市の子育て支援について、良いと思うこと、より充実させてほしいと思うこと	神戸市の子育て支援について、足りないと思うこと、改善が必要だと思うこと	神戸市が子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちとなるために、どのような取組が必要だと思いますか。
		その他の場合		その他の場合									
12	須磨区		40代		2人					60点／100点	公園や児童館が多い	金銭面でのサポートが少ない 兄弟一緒に保育園に入れない	室内で無料で遊べる場所を増やしてほしい
13	長田区		30代		2人					50点／100点	各区役所に遊べるところがある	駐車場代がかかる	子ども手当の拡充 未就学児童の受診頻度が高いので医療費を無償にして欲しい
14	西区		30代		1人					50点／100点	遊び場が増えた すみかえーるを利用した（宝塚→西区）	医療費を無償化して欲しい	エコファミリーの充実
15	須磨区		30代		1人					70点／100点	出産一時金（子どもが小さいのでほとんど制度を利用させていただいたという認識が薄い）	一人っ子への支援（第二子、第三子以降の子育て支援が目立つが、子育ての大変さは一緒、分け隔てなく支援してほしい）。子育てに関するセミナーや横のつながりをつくる支援をしてほしい	仕事に戻っても、フルタイムで働ける保障がなく収入の不安がある。働きすぎると保育料が高くなる。そういったときにプラスアルファの支援があれば、仕事に戻る。
16	須磨区		30代		3人					20点／100点	あまり制度を使えていない	未就学児と小学生（きょうだい）が、一緒に遊べるところが欲しい。産前・産後ホームヘルプサービスは使っていないし、まわりのママ友もつかっていない。使っている人はいるか？知らない人に支援してもらうには事故リスクなど抵抗がある	（一覧をみても）使えていない、あと一歩という施策が多いのではないかと、そこを改善できれば
17	須磨区		30代		2人					90点／100点	医療費を援助してもらえると病院に行きやすい（他府県から来たが、そこと比べたら悪いと感じない）	今の段階では、足りないと感じるところ（支援施策）はない。歩いて行けるところに子育て用品を安く買えるところがないのが難	精神面で繋がれる場があれば住みやすいかも。他府県から移り住んだ者にとって“神戸愛”が育めたら住み続けるかも
18	須磨区		20代		1人					30点／100点	なし。あって当然のサービスばかり	0歳児から教育の一切無償化（習い事・塾）	税金が高い、大阪や明石でできることができない理由がわからない
19	垂水区		30代		1人	1人				75点／100点	あまりよくわからない	病児保育の施設	特に感じない
20	その他	明石	20代		1人					80点／100点	小さい子供が雨でも安心して気軽に遊べる施設がある。子育て相談に来ることもある	特に思いつかない	2人目を考えている。二人目の出産をしてから職場復帰できるか不安
21	須磨区		その他	50代（祖母）	2人	1人				60点／100点	保育園が多い	明石のようなサービス（具体的にはわからない）	ふらっとひろばのような気軽に遊ばせられる施設

長田区	1
須磨区	14
垂水区	1
西区	4
その他	1
合計	21

平均点 (n=21) 65点／100点
 最高点 90点／100点
 最低点 20点／100点

未来都市創造に関する特別委員会 フィールドワーク（グループC）
神戸名谷ワークラボ SUMAile における意見交換会（議事要旨）

日 時：令和7年1月21日（火）13：45～15：18

場 所：神戸名谷ワークラボ SUMAile 会議室

出席者：神戸名谷ワークラボ SUMAile 子育て中の就業者 4名

門田委員長、前田理事、香川委員、三木委員

議 題：「子育て世帯に選ばれ住みたいまちづくり」をテーマとした意見交換

要 旨：

1. 神戸市の子育て支援への感想（良い面、良くない面）

（就業者）

- ・子育てしてきたが、資料（ライフステージに応じた切れ目のない支援）にある支援策をほとんど知らなかった。出産一時金、新生児までは分かる。その後の子育て支援策では、児童手当、こども医療費助成はありがたいと思っているが、それ以外にこんなにあるんだというのが最初の印象だった。
- ・出産から就学前までは支援が豊富にあるイメージだが、中学校から高校までの間は体感的に支援があったような印象はない。最近の高校生通学定期補助はインパクトがあって、助かると思った。子育ての後半にいくにつれて、支援制度が見えなくなっている。
- ・県外に住んでいて結婚で神戸市にきたが、公立幼稚園がほとんどないことに驚いた。私立幼稚園は私立の良さもあるが、金額が結構高かった。仕事を始めるときに、預かりをしても幼稚園でも補助があるのはありがたくて、仕事の復帰はしやすく感じた。
- ・育児中に、子育て応援パスポートが出掛けるきっかけになって良かったが、それを知っている人が少ないイメージだった。
- ・子供が小学校に入ったときに新興住宅地に家を購入した。近隣の小学校は元々過疎の地域でクラスが足りなくて増設を重ねている。人口減少していることに驚くくらい子供が多い。子供が多すぎて、学校の行事の内容が希薄になったり、学童が飽和状態なので入れてもらえるが、入ることを選択しなかった。近隣のほかの学校に通ってもよいと言われたが、通学の手段がない。坂道が多く、隣の駅にも徒歩や自転車では難しい。子供を歩いて通わせられる近隣の小学校がない。スクールバスなどの手段があれば、どこの学校にも安心して通わせることができ、親の補助なく通学できる。生徒を分散できる手段があれば、人数が多すぎるという問題が解決し、他の問題も解決するのではないか。
- ・地域福祉センターについて、あまり活用されていない。子供の人数が多すぎて大人の人数が足りない。ほかの地域のセンターに行ってもいいのかわからないし、行くという選択肢があるということを知らない人が多い。地域の人数の偏りを細かく分散させることで、地域の問題も考えやすくなるのではないか。子育てしていて、学校の先生、市の職員はすごく良くてありがたい。
- ・良い点としては、市内・県内・県外一部の美術館、博物館が無料になるのびのびパスポートである。美術館、博物館は子供にとって良い刺激になるので積極的に活用している。
- ・今、中学生が友達とテスト勉強をしたいが、図書館は予約制で、予約できても話ができず、教え合うことができないと聞く。中高生が友達と勉強や学校の打合せをするスペースがない。学習ができる場所が各駅にあってもよい。区役所の1階に学習スペースがあるが有料で、無料の場所はない。
- ・部活で練習試合、公式戦で遠いところでは芦屋まで行く。割と練習試合が多くて、交通費がかかる。地下鉄海岸線は中学生無料化になっているので、西神山手線も土日くらいは、無料にはならなくても、学校の活動で使うときにはもう少し安くなるなど補助があると嬉しい。
- ・児童手当の計算方法が、大学生を第1子にしてもらえるようになってありがたい。3人目を産

むと私立幼稚園の補助が多くなる。これからの時代は、東京都の第1子保育料無償化のように、神戸市も第1子から所得制限なしで補助をしてほしい。

- ・高校生通学定期の補助について、昨年は、定期代が上限を超えた部分の一部を補助する制度だったので、定期代が高かったのに、計算したら数百円で補助を受けられなかった。今年度始まった制度は市内の学校は全額補助となっている。税金を払っているのは親なので、居住地が神戸であれば、市外の学校に通う場合まで条件を緩和してほしい。補助の上限はあってよい。
- ・インフルエンザワクチンの負担が大きい。0歳から小学校6年生は2回接種で5,000円くらいかかる。東京は18歳まで無料だ。高齢者が1,000~1,500円で受けられるのに、これからの将来を担う子供たちはそれ以上かかる。最近は分からないが、以前は明石市が安いと聞いて、一家で明石に受けに行く人の話も聞いた。
- ・他の市町村で出産時の負担が全くないところもあると聞く。神戸市は国の上限の50万円の補助をしていると思うが、たった数万円でも自己負担があるのはどうかと思う。出産でベビーカーなど出費が重なる時期で、物価が上がり生活も厳しくなっているのに、将来の神戸市では自己負担が全くなく子供を産めるようにしてほしい。
- ・明石市は子育てに手厚いというイメージ戦略をとっている。大阪での塾のクーポンの配付、東京の充実した子育て支援を見ると、神戸市は何をしているのかなと。期待はしている。

2. お金を支援することによる効果について

(香川委員)

無償化や奨学金など、お金を支援するとどういう効果が生まれると思うか。親としては支援がなくても子供が行きたい高校に行かせたいと思う。お金を支援した効果として、例えば、そのお金で習い事など別の経験が積めるようになるとか、子育ての笑顔が増えるとか、そのお金で別のことをアウトソーシングして子育ての時間的余裕が生まれるなど、効果がどういうところに生まれるのか。

(就業者)

- ・例えば、神戸市内の学習塾に限定した補助があった場合、市外の塾の方が良いという人もいると思うが、神戸市の企業に還元するという意味で、制限が付いても市内の塾を選ぶ人が増えると思う。塾に行かせやすくなる。
- ・通学定期代の補助などは、一時的に家計が潤うという効果もあると思う。子育て中に家を探して引越しを考えている人と、市外に行くと通学定期代の補助がもらえなくなってしまうという話をしたことがある。市内在住であれば受けられるサービスは、人口流出の食い止めにもなる。家計が潤うという小さな話だけではないと思う。
- ・子供の医療費が400円は安いと思っていたが、出身地は無償だった。大学無償化は先のことすぎて想像できないが、大学の費用は必ずかかる。もし医療費400円が浮いたら、子供のための貯金額を増やしたい。
- ・もう1人子供が欲しかったが、経済的な理由で諦めた。もし補助があれば、もう1人産めたかもしれない。

3. 子育て支援の重点をおいてほしいところ

(門田委員長)

子育ての予算も無限ではない。どこに集中してもらいたいのか。例えば、神戸市は切れ目のない支援が売りであるが、子供が小さい時よりも中学生、高校生を手厚くしてほしいとか、有効に使っていくという観点で、どの辺りを手厚くしてほしいか教えてほしい。

(就業者)

公立学校の先生の給料を上げてほしい。圧倒的に人が足りていない。ものすごく頑張ってくれている。公立も良い学校が多く、先生になりたい人でも、この給料でこの時間ではやっていけな

いという人がたくさんいると思う。先生の中には身を削っている人も多いと思う。

(門田委員長)

公立の先生の給料を上げることによって、教員の人材確保につながり、教育の質が向上して、子供に還元されるということですね。

(就業者)

未就学児、小学校の頃に家計がそれほど圧迫されたとは感じていない。中学に入り、部活が始まっても学校での負担はそれほどなく、どちらかというと塾にお金がかかった。ほとんどの子が塾に行く中で、塾に行かないと受験戦争に負けてしまうという風潮があり、塾にお金がかかる3年間だった。高校では授業料、部活関係にお金がかかるようになった。この先、大学ではもっと大きな負担がある。本当にお金がかかるのは大学生になったときで、大学生にも所得に関係なく、何か支援があれば、神戸市に住み続けようとなるのではないかな。

4. 子供たちからの要望について

(三木委員)

中学校受験では親が受験を勧めるが、高校、大学では子供の意思が出て来て、親は応援したいから希望に合わせた塾にお金をかけるとか、やってあげたい気持ちはよく分かる。親子の会話の中で、子供からの要望や、これは止めたらいいい、的を射ていないといった意見があれば教えてほしい。

(就業者)

- ・自習スペースの話だが、中高生はマクドナルドに行っている。子供が小さい頃、ハーバーランドのこべっこランドによく行ったが、例えば、こべっこランドで夕方からシルバーの方が管理して、中高生が使えるスペースにしてはどうか。住んでいる地域のセンターは駅から離れていて利用しにくい。アクセスのしやすい利便性の高いところであることが大切。そもそも知らない子が多いので、駅前のフリースペースを学校経由で広めるなどしてほしい。図書館は予約がいっぱいで勉強をする場所が家以外にないので、中高生にとってニーズが高いのではないかな。
- ・小学校が終わった後の遊び場があまりない。ランドセルを置いて走っていけるような場所がほしい。田舎では、公民館に行けば、広いスペースとボールや卓球台があり、友達と待ち合わせができる。坂道が多い地域で、安全に歩いていける場所が少ない。学童は飽和状態なので、学校の体育館を開放するなど、安全に行かせられる場所があればいいと思う。

5. 子育て支援策で惜しいところ

(前田理事)

学齢に合わせた居場所が必要かなと思っている。学校が空いている、近くに公園があるなど、住んでいる地域によって差があることに對して不公平感があると思う。お聞きしていると、明石、東京、大阪、以前住んでいた地域と比べて、なぜ神戸市ができないのかと疑問に思われている。神戸市としての当たり前を求められている。そうは言っても神戸市は150万人都市で、1つの市と言っても個性があり、行政区がある。地域ごとの施策を出してほしいという意見もいただいている。ここをもう少し磨いたら神戸市を選んでくれるのだろうなと思うところがあれば教えてほしい。惜しいなと思うところを教えていただきたい。

(就業者)

子育て応援パスポートかなと思う。私の出身地の子育て応援パスポートを持っている人は、財布に入れて持ち歩くくらい使用頻度が高い。神戸の応援パスポートは、ネットに登録して画面を見せるという仕組みだった。検索して何が使えるかをまず調べないといけない。コンビニでお湯が借りられるサービスもあるなど、メニューがたくさんあって調べにくい。お店にシールも貼っているが、それが見えにくい。イオンモール神戸南は分かりやすく、よく応援パスポートを持って行ったが、それ以外はなかなか見つけられなかった。アプリ化するとか、小学校に入ってから、

のびのびパスポートと一体化して分かりやすくしたら、もっと長く使えて、使用頻度も高くなり、ママ友にも言いやすい。

(三木委員)

ロコミで広げてもらうような形になるわけですね。

(就業者)

高校生通学定期補助を知ったのはインスタグラムで、たまたま広告が流れてきた。広報紙、新聞でも発信していると思うが、こういった情報は自分から取りに行かないといけないことが多い。初めて今回、何も考えていないときに情報を得ることができた。SNSをもっと活用すると取組があれば、もっと知られるようになるのではないかな。

(前田理事)

広報紙は見ることがあるか。もうすぐ2月号が出て、市会だよりもその中に挟まれている。

(就業者)

- ・LINEの登録をしているので、神戸市からLINEで広報紙のお知らせが届き、便利だ。ポストに入るものは、新聞と一緒に捨ててしまう。
- ・広報紙は必ず読む。LINEも登録しているが、ポストに届く広報紙をしっかりと読む。

6. エコファミリー制度について

(三木委員)

交通局のエコファミリー制度は、大人が乗車したら子供は2人まで無料になる制度だが、知らない人が多い。運転手さんも言ってくれない。なかなか利用率が上がらない。私も利用を忘れたことがあったが、運転手さんも家族かどうかかわからないので勧められないとのことだった。365日実施している。その辺りがわかりにくいところだ。

7. 広報について

(三木委員)

神戸市も頑張っているが情報発信が下手と言われる。年代によっても広がり方が違うと思うが、どうやったら、みなさんの目や耳に触れやすく広がっていくと思うか。

(就業者)

- ・地下鉄三宮駅のデジタルサイネージで神戸市の取組が出るようになったのでチェックするようになった。
- ・スマホなど媒体を使うのはどこでもやっている。私は紙で見る方が頭に入りやすい。駅周りの掲示が整理されてないように感じる。タウンワークなどを入れているラックも汚いし、もっとうまく活用してほしい。駅を利用する人は多いので、目に付いたときに取って帰れるのはいいと思う。SNSは見に行かないといけないし、登録もしないといけないので、効果が上がるのかというと、そうではない気がする。パッと目に付く昔のやり方が、意外と今の時代にも通用するのではないかな。

(三木委員)

子供が学校で配られて家に持って帰って親に見せるのはどうか。

(就業者)

本人が見せるかどうかはあるが、今、高校でもそのようなやり方でやっている。紙でもらったら見るし、大事なものはファイリングする。高校でも遅刻や欠席はClassiのアプリで親が入力して送信するが、個人的には味気ないと思う。そのツールを使って神戸市の助成金などの案内も来るが、開いても忙しいので後で見ようと閉じてしまう。紙があると、見ないといけないと思うので、紙の方がありがたい。

(門田委員長)

神戸の弱いところは広報力だと思っている。デジタルサイネージの意見は意外だった。駅を歩

いていくときに一瞬で見てわかるのかと思っていたが、デジタルサイネージで情報を得ていることを聞いたのは、今日の収穫だと思う。インスタ、Xで神戸の情報が入ることで、詳しく調べようと思うことはあるのか。

(就業者)

私の場合は、情報が「助成始まりました」だけだったので、インターネットで詳しく調べたが、詳しく調べない情報もある。

(三木委員)

神戸市のホームページは分かりにくくないか。すごく事務的で、全て同じようなページで印象に残らない。

(就業者)

小学生バージョン、中学生バージョンなど、入口が年代別などにしてもらえると分かりやすい。どれが対象なのか分からない。紙の広報紙の話だが、パッと見て分かるものがよい。入口がぼやっとしているところを改善してほしい。

(香川委員)

SNS戦略のうまい所は、その人に必要な情報だけが入ってくることだ。それをセレクトしているのがデジタルの良さだと思う。

8. 働きやすい職場について

(香川委員)

昔は専業主婦が多かったから、行政の直接支援が多かった。働いている女性が増えているので、働いている女性の子育てを考えると、働く会社も大事な要素になる。子育てしやすい環境を会社が作っているかということも支援の1つだと思う。例えば、休みが取りやすい、学校の行事に参加しやすいなど、会社が用意していれば子育てしながら働くことができるので、そこに行政が支援してもいいのではと思っている。働きやすい職場を作ってくれるところに支援をするということもあってよいと思うが、今の会社は働きやすい職場なのかお聞きしたい。

(就業者)

子育てしながら働いているが、何か大きく影響があったことはなかった。とても働きやすい職場になっている。

(香川委員)

働きやすい職場のモデルを作ってくれたら、他の会社も真似をするようになると思う。良いところを真似してもらって、ブラッシュアップできれば、子育て、仕事を両立して自分の時間が取れてもっとハッピーになれるのではないかなと思う。

9. 市議員に求めること

(前田理事)

せっかくの機会なので、市議員に頑張ってほしいことを一言ずつ頂きたい。

(就業者)

- ・子育ては大きな枠組みだが、親も子供もこの先人生が続いていくので、お金だけでなく、心も体も充実できるような、支援、施策が増えていったらより良い社会になるのではないかなと思う。子供は宝なので、今の子供たちを大切に育てていくにはどうしたらよいか、たくさん議論していただきたい。
- ・自治会がない地域なので、直接意見を発信する場がない。過去にこういった意見を出してもらった恩恵を今、たくさん受けているのだと思う。未来の子供たちのためによりしくお願いしたい。
- ・自宅に届く議員の活動報告を見て、情報を得ることがある。議員がいろんな活動をされていることを理解しているので、子供たちが住みやすい町にしてほしい。大人優先の社会になってい

るように感じるので、子供たちが大人ばかりずるいと言う。自分たちが大切にしてもらっていると感じられるように、子供優先となるような政策を打ち出してほしい。

- 直接話ができうれしい。ほかの人たちも伝えたいことがある中、わざわざ議員の事務所を訪ねることはできないので、いろんなところで年代を変えて実施してほしい。Twitter、YouTubeの話を子供たちとするが、子供たちも入手しやすい形で広報してもらえると、もっとこうしてほしいという意見を言いやすくなるので、方法を考えてほしい。

○ おやこふらっとひろば名谷

乳幼児健診や育児相談などで区役所を訪れた際に、気軽に「ふらっと」立ち寄ることができる場所として開設。子育て中の親子同士で交流ができ、子育て相談や情報提供なども行う。

所在地：北須磨支所ビル 2 階（須磨区中落合 2 丁目 2-6）

開室日：月曜日～土曜日、第 2 日曜日

開室時間：9 時 00 分～17 時 00 分（第 2 日曜日のみ 9 時 00 分～16 時 00 分）

受付時間：16 時 00 分まで（第 2 日曜日のみ 15 時 00 分まで）

利用対象：未就学児とその保護者

定員：80 名

運営事業者：社会福祉法人翠福社会



○ 神戸名谷ワークラボ SUMAile（スマイル）

近年、共働き世帯の増加に伴い、通勤時間をできるだけ短くし、育児や介護、自分のための時間を確保するため、職場に近い場所に住居を求める、いわゆる「職住近接」の傾向がある。

2019 年 12 月に開所した神戸名谷ワークラボ AOZORA（アオゾラ）により、「職住近接」に対するニーズが確認され、郊外ニュータウンにおける「地域の方の働く場」が成立することが実証されたことを踏まえ、2023 年 6 月にオープンした名谷駅ビル商業施設「tete（テテ）名谷」の北ゾーンに 2 拠点目の働く場として開所された。

AOZORA と併せてパートタイム、フルタイムの約 150 名が就業している。運営事業者が全国の自治体や民間企業から外注業務を受注し、地域の方に仕事を提供している。

所在地：神戸市須磨区中落合 2 丁目 2 番 3 号 tete 名谷 3 階

運営事業者：パーソルテンプスタッフ株式会社



別紙 3. 委員間討議の概要（その 1）

令和 7 年 3 月 12 日

「子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちづくり」に基づき、これまでの活動を通じて見えてきた問題や課題等について委員間討議を行った。

- ・子育ては長く続くものであり、子育てをしながら仕事をしている方は、仕事と子育ての両立に課題を感じている。
- ・子育て中の方々が、目の前の施策だけに捉われることなく、この施策が将来に自分たちの仕事と子育ての両立を支えることをイメージしてもらえようような訴求が必要である。
- ・子育てが始まっていない若い世代にとっては、どのような子育て支援策があれば、そのまちを選ぶ理由になるのか、イメージが湧きにくい。子育て支援策を沢山並べて広報することが、若い世代に神戸を選ばせるということにはなりにくい。
- ・神戸だけの問題ではないが、女性が子育てに移行する前段階の結婚を躊躇わせるような社会要因について、国を挙げて考えなければならない。母親が、女性がではなく、女性だけがキャリアの断絶を心配するという状況について、男性も一緒になって、理想の働き方改革などを考えていく必要がある。
- ・子育てをしていない若い世代でも、結婚、子育てに対して大変なイメージを持っている。女性に負担がかかるのではないかと不安の声もある。特に経済的な不安が強い。
- ・結婚して子供を持たないと回答した方でも、仕事と結婚の両立ができるなら子供が欲しいという意見がある。複数人子どもが欲しいという意見もある。そこに対して行政の支援が必要ではないか。
- ・こども未来戦略においても、若年世代の経済的な負担をいかに軽くしていくかというところが強調されていた。それを受けて、市長は、あらゆるセクションで賃上げとも発言していた。神戸市も行政として、それらに向き合い具体化して行く必要がある。
- ・市民はそれぞれのライフステージで具体的に何を欲しているのか、直接話を聞きながら施策設計していくことが大事であると感じた。
- ・依然として神戸市よりも明石市のほうが子育てしやすいイメージが強い。明石市の待機児童は令和 6 年度で 50 名と公表されている一方で、神戸市は待機児童を解消しており、神戸市の取組が知られていないことが課題である。広報についてもっと力を入れなければならない。
- ・自身も子を育てる親として、神戸市で子育てがしやすいことを実感している。他の保護者と接する機会があるが、保護者からもそういった声を聴く。
- ・これまで子育てしてきた方から、出産一時金、新生児までの支援策は分かるが、その後の支援策は知らなかったとの意見がある。どのような広報をしたら、しっかり届いて、神戸がいいまち、子育てしやすいということが伝わるのか、難しい課題であるが、もったいない。

- ・広報については、「広報紙や新聞は見ない、もっとSNSを活用してほしいが、最近ではInstagramを開始しており、以前より見られるようになった」という意見がある一方で、「広報紙は端から端まで読む」「LINEも登録しているが、やはり広報紙だ」という意見もある。広報媒体は、何かをやめてではなく、もっと広げる努力が必要である。
- ・サービスを利用しづらい、ニーズに合っていない、利用していないといった厳しい意見を多く聴いた。施策を打ち出して終わりではなく、利用者の意見を聴いて、細かいニーズに合致した施策として絶えず改善していく必要がある。
- ・企業・事業者が働き手のニーズに合致していないのが課題という印象がある。企業側がしっかり人を雇って、成長していくということが大事であるが、神戸には（希望に合った）職場が少なく、神戸市も理解しているのか疑問である。企業側から神戸市に具体的な支援策を求めている。
- ・神戸はものづくりのまちとして長く発展してきた。社会全体で技能職に対する評価が低くなってしまった一方で、ものづくりの技術や機能は、少なくなった分だけニーズの高まりを感じる。
- ・神戸高専は市内の製造業に貢献しようと取り組んでいるし、西区鉄鋼団地の職場でも、女性を雇うことによって男性も雇用も増えたという事例がある。
- ・若い人たちがイメージするいい仕事のイメージに偏りを感じるため、一気に何かを変えることが無理でも、意識づけや動機づけを我々も考えていかなければならない。
- ・若い人たちには、子育てが経済的にも肉体的にも大変、本人のキャリアアップにも大変というイメージが浸透している。まだ結婚もしていないのに、悪いイメージが強い一方で、市が子育て支援策をたくさんしていることの認識が非常に薄い。
- ・大都市である神戸市が周辺の小さな自治体から人口を奪い取っていくという話ではなく、若い人たちに実態を十分に理解されていない状況を改善できるように、若い人たちが自分たちの将来に対する積極的なイメージを持てるように、神戸市が様々な事業でモデル事業ができないだろうか。
- ・フィールドワークで若い人たちの意見を聴いて、アンケート調査の状況を見て、認識を新たにさせられたので、さらにこのような議論ができればよいと感じた。
- ・人口減少の長期化が避けられない中、子育て世代をどう増やしていくのかということに対する発信について、安心を持ってもらえるような発信が必要である。
- ・施策も必要であるが、加えて神戸市で子供を産み育て、働き続けることに希望がある、それを支えるのが神戸市であるといった発信を、委員会からも神戸市に訴えていく必要がある。
- ・企業・事業者の多くが行政支援の必要性を訴えている。手っ取り早い支援として、住宅補助かと思うが、神戸市の案内を見ると、複雑で分かりにくい。市内だけでなく、市外でも、住宅関係の会社に情報を共有して、神戸市に住んだら簡単に支援が受けられると思えるように改善が必要である。
- ・企業アンケートでは、企業が若者及び子育て世代に選ばれる取組を実施した結果、その効果を問う設問があったら、より深い議論ができたと思う。

- ・今回の調査は、市内特定の地域の方の意見を聴いた。地域ごとに特性があって、対象の考え方や子育ての仕方も異なる。
- ・神戸市のライフステージに応じた切れ目のない支援について、発信の仕方が悪いのか、伝わっていないというところがあり、分かりやすさも含めて検討が必要である。
- ・実際にサービスを利用されてみて、よくないと言われた方もいた。毎年同じことを続けるのではなく、改善、アップグレードしながら、認知度を上げていくことも必要である。
- ・未就学児、就学児、中高生を育てる保護者の方からそれぞれ話を聞いたが、共通して施策が認知されていない印象を持ったため、発信は分かりやすくやっていく必要がある。
- ・神戸は23大学7万人の大学都市であるが、卒業生の多くは神戸に住まない。いわゆる転出超過の都市である。若い世代は、様々な神戸愛がある中、神戸の中にも就職したい企業はたくさんあるのに、東京の企業に引っ張られてしまう傾向があることを感じた。
- ・子育てに関することは、人は欲しい情報だけ取得するため、1つだけじゃなくて連なるパッケージが必要である。
- ・この委員会は、幅広く、プラス思考の委員会である。有意義な意見もあれば、マイナスの意見もあるが、前向きにおまとめいただきたい。

別紙4. 委員間討議の概要（その2）

令和7年4月9日

委員会活動報告書案について、委員間討議を行った。

- ・「3. 見えてきた課題に対する意見」について、もう少し具体的な提言をしてはどうか。例えば、調査の結果、どのような広報媒体が有効であったとか、働きやすい職場が分かったから、こういう政策をして欲しいなどである。まとめる段階でどのような意見があったのか。
- ・報告書ではあくまでも将来的な像を作っていくという形にして、個々の具体的な政策提言などはそれぞれの常任委員会で行うべきではないかという意見があった。
- ・市民報告会を聞きに来た方や、この報告書を見た方からすると、少しぼんやりした感じの印象を受ける可能性が高いのではないかと。1年間、時間と労力を使ってやったので、皆さんが課題だと思うところに関して解決策を提案してもいいのではないかと。
- ・実際に市民報告会を開催しているのは当委員会のみで、市民報告会では1年間何をしたかをそのまま報告すべき。成果として政策提言を目指して活動できれば一番良いが、会派間の意見の相違もあり、運営上難しい。どういう議論があって、各会派の意見があって、その中で委員会全体としてどういう意思決定をしたのかという流れを、1年間のまとめとして市民の皆さんに報告できればいいのではないかと。この委員会を続けるのであれば、合意できるものはまとめようという意識を持って、方向性をつけていただければと思う。
- ・読み取りにくいかもしれないが、当局はいろんな政策を講じているが、庁内でどのように評価して次に繋げているのかという課題意識を指摘しているような報告書なので、これはこれで意味がある。その評価制度について、もう少し具体的なことを言えたらよいが、政策の次のプロセスに向かうための評価制度を指摘しているので、そこに委員の意見とのギャップがあるかもしれない。
- ・「3. 見えてきた課題に対する意見」の「真にニーズに合ったサービスが提供できる」については、見直しが具体的だと思うが、「子育て支援策が伝わる、子育てとの両立がイメージできる」は、一般的な話に近い。具体的にできるところは具体的にしていくことが必要ではないかと。
- ・一般的になっているのは、調査結果などのエビデンスがないところ。3つのうち、2つはある程度具体的であり、残りの1つは文章から斟酌してほしい。報告書としてはこの程度にとどめるのがいいのではないかと。
- ・議論を重ねてきた人にとっては、伝えたいことが読み取れるだろうが、初見で読む人には分かりづらいということを意見しておく。
- ・報告書としては、結論の意見が少し簡単にまとめすぎではないかと。神戸が子育て世帯に選ばれるためにどうしたらよいかということであれば、確かにこういう報告書になるのかと思うが、調査の中では、神戸に限らない社会課題に対する意見もあった。それらは盛り込まなくていいのか。例えば、出産や子育てが女性の働き方の障壁になるのではないかと、家事や子育ての負担が女性に偏っているのではないかなど、社会風土

におけるジェンダーギャップの解消が必要だという、神戸に限ったことではないが、社会としては重要な課題についても、神戸市が施策を講じるにあたって理解していないといけない。報告書で触れるべきではないか。

- 今回のテーマは、神戸市が子育て世帯に選ばれるにはどうしたらいいかであり、今の意見は、全国的な問題である。今回の調査では、すでに神戸市としてはいろんなサービスをしているが届いていないという現状があることが分かった。受皿としての企業の取組についても十分なものができていなかったのも、そのあたりの支援をしっかりとするというところが、この報告書の肝。全国的な課題などについては、今回のテーマとは少し次元が異なる。今回は神戸市が選ばれるためには、これがまず必要であるということに特化した報告書になっていると理解していただきたい。
- 全国的な課題であっても、若い方の不安とか、将来設計に関わる問題など、背景としてはあるわけで、切り離すのはなかなか難しいのではないかな。そういう背景がありながら若い人たちの現実があるわけで、そこに神戸市として、いろんな政策を打って、それを解消し、そして選んでいただく、少子化対策としてやっていくということなので、そういう背景的なところも盛り込むべき。
- 神戸が選ばれるまちにということで、神戸に特化したことを書くことが分かりやすいとは思いますが、神戸市の施策もそうした社会課題が正しく理解されずにされてしまうと、上滑りするのではないかな。報告書全体の中では書いているので、委員会の成果としてはなくてもいいかという気もするが、全国の課題だから、神戸が選ばれるために関係ないとは思わない。
- 議会の質疑でも、ごみの回収に関して利便性を上げるような提案をしたときに、「こうすればお母さんがすごく喜ぶ」と議員が言っていて、違和感を覚えた。市民が喜ぶなら理解できるが、なぜごみ捨て＝お母さんなのかと感じた。そういうズレをなくしたい。それを報告書に求めるのはおかしいかもしれないが、発言の意図はそうである。そういうところで滑っていると、どんな施策も台無しである。
- グループCでは、平日に子育て支援施設や子育て世帯の方が働く施設に調査を行ったが、やはり話を聞いた対象は女性の方だったので、そもそもなぜそうなっているのかということも問う必要があるのではないかな。
- 全国的なジェンダーギャップの問題や、女性に過度に家事や子育ての負担が寄っているという問題についても、もちろん警鐘を鳴らす必要があると思うし、それが本当に神戸ならではの課題かということもさらに分析が必要。
- 男女共同参画課の調査でも、神戸市の就業率で女性の方が低いという問題や、共働きが少ないという問題は神戸ならではの何かがあったと思う。今回の委員会では時間が足りないが、そこもしっかり掘り下げて、男女共同参画課を所管する委員会などでもしっかり議論していただくべき課題かと思う。それを施策としてどう昇華させていくかとなると、そこに踏み込んだ委員間討議をする必要があり、どの施策が神戸では求められているのかとか、国に何を求めるのかとか、そういう議論を今後の委員会で行うのであればいいが、今回の報告のまとめ方は必ずしも提言として狭めるようなもの

ではなく、皆さんから聞いた声の中で神戸ならではの課題をどれだけ抽出できるかということで取り上げた問題なので、こういう報告書になっている。

- 全国的な課題などを入れるとすれば、まとめの中でそういう背景もあったということを入れるのも一つの重要な観点かと思う。まとめの中で書かれている「将来収入や社会環境を不安視し、心配する声も多く頂いた」というのは、実際に聞いたことだが、これは別に神戸に特化している話ではないと思うので、そういう問題も触れる必要があるのではないか。せっかくここで委員間討議をしているので、可能であれば出された意見は最大限報告書に反映すべきではないか。
- 高校生、大学生という層に調査をして、子どもたちが将来の子育てを考える前の段階にあるため、意見が自由すぎて、とりとめもないものになってしまっていたのが反省であり、感想である。その中でも現役の大学生の意見は肯定的なものが多かった。神戸に住みたい、神戸で子育てしたいという意見があったので、下地はあるのだという確信は持てた。その手応えを確かなものにしていくには、グループBやグループCの調査が生きてくる。次世代に繋いでいくという観点から、市民報告会の中でも漸進的なコメントとしていただけると、グループAの調査も生きてくると思う。ただし、高校生アンケートの結果を見ていただくと、意見のバラつきが大きい。それに縛られてしまうと、大事なことを見失ってしまうような気がするので、正しいところに目をつけてもらうような工夫があった方がよい。
- グループの中でも調査対象の家族構成やライフステージが異なり、だからこそ面白いデータもあるが、本当は保護者だけでなく、子どもに直接聞いたり、学校の先生に聞いたりすることもありだと思う。
- 神戸市はいろんなことをしているが、自分たちには伝わってこないという意見に対しては、就学前の子、就学中の子、就職する子がいるなど、いろんな家族のスタイルがあると思うが、その家族が一度に必要な情報を得られるように、縦割り行政をまとめるような観点も必要。
- まずは今回のフィールドワークの結果に基づいた報告書でいいし、評価してもらえばよいと思う。今回の調査以外のところに踏み込めば、いろんな意見が出てくるし、どこを重点的に調査するのかとか、調査する相手もどんどん広がっていくことになる。
- 母親の負担を減らしていくことも全国的な課題であり、神戸に特化した話ではないと言うが、それは取り上げるべき。神戸だけの問題ではなくても、神戸から突破することができることだと思う。そういう視点を持って政策提言をしていくということが大事。
- 今回の調査で感じたのは、母親が大きな負担を抱えているということ。その負担を軽減する政策をしようということに絞っていいと思う。対象は母親であり、使えていない政策があれば、その母親たちに向けて政策を伝える。母親の負担を軽減できているかという視点で、今の政策を検証することも考えられる。
- ターゲットが今回の調査の中でずいぶん絞れ、目標も掲げられたので、子育てしながらでも働ける環境を母親のためにつくるなどの具体的な政策を今後練っていくような提言に持っていてもいいと思うが、任せる。

- ・今の思いはよく分かるが、それは思いであって、データも何もない。企画調整局との意見交換でも、人口移動の一番の要因は働く場所だった。働いている世代が神戸に来た理由や他都市に行く理由のほとんどが就職で、それが1番大きなインパクトだった。母親が選んでくれたら神戸市に来るのかといたら、そうではなくて、その要因がいろいろある中で、ご指摘の点も理解できるが、この委員会がこのテーマで引き続きやるなら、次の課題だと思う。今回の調査でそこまで踏み込むのは難しい。母親の負担とか、そういうことに特化して調べて、委員会で提言するのはありだと思うが、今回は時間的にも労力的にも、テーマ的にも苦しいかと思う。
- ・今回の調査でそこまでいくのは飛躍しすぎだと言うが、実際グループCでアンケートを取った中では、父親は1人だけで母親がほとんどだった。我々は母親に自然とターゲットを絞っているわけである。その人たちがどういう思いを持っているかと絞ってもいいぐらいのデータを、グループCは得たと思っている。
- ・グループBが聞いたのは、企業に対して子育て世代と若い世代の雇用に課題があるかとか、働く環境がどうかで、女性だからというのは特にはない。子育て世帯だと、子供の急な病気などがあるので、企業側がそこに対応できていないという声はあった。
- ・グループCでは、女性に特化したアンケートや質問をした。その部分では女性にということで提言ができるかと思う。
- ・グループAの高校生アンケートの回答は男子の方が多い。はたちを祝う会の代表スタッフは全員女性だったので、その意に沿ったような結果になっているが、グループCは20人程度の調査であり、特定の施設に来ている人たちということなので、そこだけを見てしまうと、木を見て森を見ずになってしまうのではないかと。総合的に今回の報告書を見るべき。母親に対して伝える報告書になった場合、それ以外の人たちはそれを見てどう思うかということも配慮すべき。
- ・ジェンダーギャップの意見を言ったのはそれを母親に伝えるとかではなく、社会全体に、意識改革の意味で言っている。先ほどの意見も調査対象を選ぶときにそもそもそこにジェンダーギャップがかかっているのではということだと思う。いろいろ意見が出て、老後の不安に関するウェルビーイング的な視点の話や、ジェンダーギャップの話などをしたが、今のいろんな意見を聞くと、それが果たして今回の各グループの調査に基づいた結果と言えるのかというのは、少し疑問はある。それを委員会の意見として集約するかどうかは、理事会に任せる。ただ、この委員会の調査を通して感じたこととしてたくさん意見が出たので、報告書のまとめのところにでも背景として書き加えてもらえたら、今の討議もやや有効ではないかと感じた。
- ・グループCは須磨区の施設に行ったが、須磨区だけしか見ていないので、他区や異なる曜日、時間であれば、男性も多く利用しているかもしれない。そもそもおやこふらっとひろばが男性の行きやすい環境なのかどうかということもある。
- ・こべっこランドなどは家族連れでにぎわっているので、そこに張り付いていろんな方に話を聞けば、より詳細な多様な意見が出ると思うが、今回の調査は須磨区で、自分たちが持っているデータを踏まえて報告書を作成するしかない。

- ・もっと広げようということであれば、さらに調査を広げないといけない。事実として、今回の調査を行ったわけであり、この報告書を出せばいい。ただし、これが全てではないというのが前提である。